

福井県新高速交通ネットワーク 活用・対策プラン

平成24年3月

福 井 県

目 次

はじめに

第 1 部	プランの趣旨	1
1	プラン策定の趣旨	
2	新高速交通ネットワークの効果	
第 2 部	北陸新幹線の活用・対策	9
1	基本的な考え方	
2	活用・対策	
	(1) いかに福井に人を呼び込むか (観光・ブランド対策)	
	(2) いかに商業の競争力を高めるか (産業・商業対策)	
	(3) いかに在来交通の利便性を維持・確保するか (交通対策)	
第 3 部	舞鶴若狭自動車道の活用・対策	29
1	基本的な考え方	
2	活用・対策	
	(1) いかに嶺南・嶺北間の交流を増やすか (嶺南・嶺北の一体化)	
	(2) いかに嶺南に人を呼び込むか (観光・ブランド対策)	
	(3) いかに経済活動を活発化させるか (産業・貿易対策)	
第 4 部	プランの推進体制	45
1	プラン実行の体制	
2	プラン実行の工程	
参 考		51
	・プランの策定経緯	

は じ め に

福井県を取り巻く高速交通体系が、今後、大きく進展します。昨年末、北陸新幹線の敦賀延伸の方針が決まり、長年の課題に解決の道筋が見えました。敦賀港の日本海側拠点港選定、中部縦貫自動車道の県境までの新規事業化も決定されました。これらは、日本海国土軸の形成と県勢発展につながる大きな成果です。

局面が大きく変わるこれからの10年は、突破力と発信力を持って福井の良さをアピールする好機です。人のつながりや、確かなものづくり、生活の中に残る伝統や食文化など、福井県の豊かさをさらに伸ばし、「にっぽんのふるさと」と呼べるこの福井のすばらしさを、目に見える形で全国に発信していきます。

平成26年度には、北陸新幹線の金沢開業、舞鶴若狭自動車道の全線開通、中部縦貫自動車道の整備促進が予定されています。福井県の立地条件が格段に向上し、2つの大きな変化をもたらします。

1つは、「嶺南・嶺北の一体化」です。県内各地への移動時間が大幅に短くなることを活かし、嶺南、嶺北そして県内各地の交流をこれまで以上に増やします。もう1つは、「3大都市圏との環状ネットワークの形成」です。首都圏、関西圏、中京圏のいずれとも2～3時間圏内で結ばれることを活かし、これまで以上に福井に人や企業を呼び込みます。

一方、北陸新幹線については、金沢開業から県内延伸までの一定期間、新幹線の終着駅となる金沢に経済活動が集中するおそれもあります。

こうした期待感と危機感を持ち、市町や関係団体等と議論を重ね、「福井県新高速交通ネットワーク活用・対策プラン」を策定しました。観光や産業の振興、まちづくり、企業誘致など、スピード感を持って実行していくための今後5年間の戦略を示しました。

まずは、目前の平成26年度に向け、県民の皆さんと目標と課題を共有し、プランに掲げたプロジェクトの実現を目指し、ともに行動していきます。その積み重ねが、将来の北陸新幹線県内延伸時のまちづくりや産業振興などにもつながっていくものと考えています。皆様の一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成24年3月

福井県知事 西 川 一 誠

第 1 部

プランの趣旨

1 プラン策定の趣旨

(1) 背景と目的

今から3年後の平成26年度には、「北陸新幹線の金沢開業」、「舞鶴若狭自動車道の全線開通」、「中部縦貫自動車道の整備促進」という福井県にとって重要な「新高速交通ネットワーク」の整備が予定されています。

これらの新高速交通ネットワークの整備により、福井県と都市圏との間の人・物の流れが拡大し、あわせて県内でも嶺南・嶺北間で、より日常的な交流が増加することが期待されます。他方、ストロー現象などの課題も想定されます。

新たな高速交通ネットワークの整備進展という好機を活かすためには、利点をさらに伸ばすとともに、解決すべき課題に早期に対処し、福井県の観光・経済・まちづくりなどにおいて、最大の成果を上げる必要があります。

こうした考えのもと、「福井県新高速交通ネットワーク活用・対策プラン」策定に当たっては、まず、北陸新幹線や舞鶴若狭自動車道の整備進展が福井県にどのような影響をもたらすのかを分析し、その利点と課題を明らかにしました。次に、その利点を活かし課題に対処するための方策について議論を重ね、具体的な施策をとりまとめました。

本プランに示した具体的な施策については、県、市町、関係団体、県民が目標を共有し、力を合わせて速やかに実行します。福井県の良さや豊かさをさらに伸ばし、「につぼんのふるさと」福井のすばらしさを全国に発信します。外に開いて福井に人を呼び込み、県内外の交流活動をさらに拡大することを目指します。

(2) 計画期間

平成24年度 ～ 平成28年度 (5年間)

平成24～26年度 (ステージⅠ)	平成26年度の新高速交通ネットワーク整備までの3年間を「重点対策期間」と位置付け、整備効果を最大限に発揮するために必要な対策を速やかに実施
平成26年度	北陸新幹線金沢開業、舞鶴若狭自動車道全線開通、中部縦貫自動車道福井北・松岡間開通
平成27～28年度 (ステージⅡ)	新高速交通ネットワーク整備後の2年間は、整備効果を全県に波及させるためのプロジェクトを全面展開

◇北陸新幹線の金沢開業・敦賀までの認可方針決定

北陸新幹線は、東京から高崎、長野、富山、金沢、福井等を経由して大阪に至る新幹線の路線です。現在は、長野まで開業しており、呼称も長野新幹線ですが、敦賀までの認可決定、平成26年度の金沢開業により、呼称も「北陸新幹線」に変わります。

すでに福井駅部が完成し、敦賀までの認可方針が示された県内においては、一日も早い整備完成・県内開業が求められます。

整備状況

- ・昭和48年11月／整備計画決定
- ・平成8年3月／小松・南越間の工事実施計画認可申請
南越・敦賀間のルート公表
- ・平成17年4月／富山・白山総合車両基地間フル化工事認可
福井駅部工事認可
- ・平成17年12月／南越・敦賀間の工事実施計画認可申請
- ・平成21年2月／福井駅部工事完成



◇舞鶴若狭自動車道の全線開通

舞鶴若狭自動車道は、中国自動車道吉川JCTから、新たに整備される北陸自動車道敦賀JCTまで続く、延長約162kmの高速自動車国道です。

吉川JCT側から段階的に供用が開始され、平成15年に小浜西ICまで開通、平成23年7月には小浜ICまで延伸しました。現在、残る小浜ICから敦賀JCTまでの約39kmの整備が進められており、平成26年度には全線が開通する予定です。

◇中部縦貫自動車道の整備促進

中部縦貫自動車道は、長野県松本市を起点に飛騨、美濃、奥越地方を通り、福井市に至る延長約160kmの自動車道専用道路です。

平成24年度には、勝山・大野間が、平成26年度には福井北・松岡間（ともに永平寺大野道路）が開通する予定で、平成28年度までの早い時期の永平寺大野道路の全線開通を目指しています。

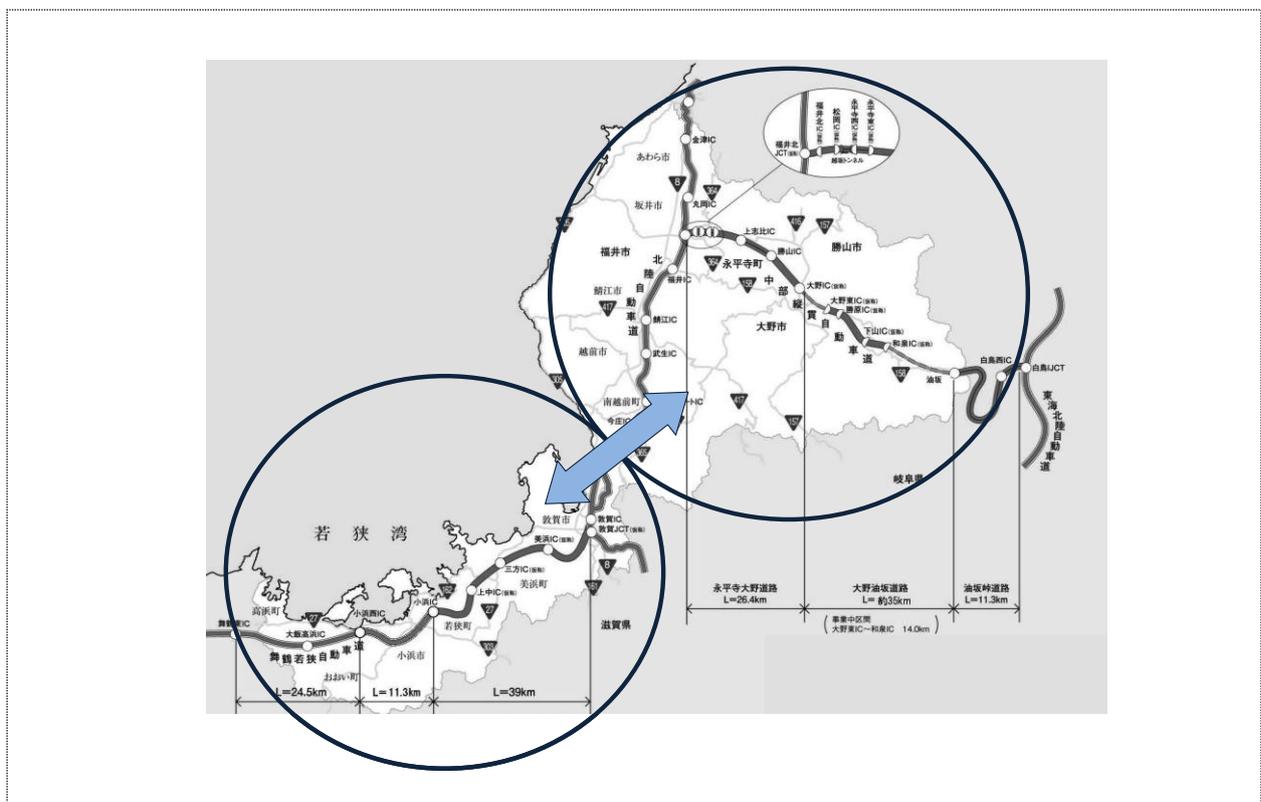


2 新高速交通ネットワークの効果

(1) 嶺南・嶺北の一体化

平成26年度には、舞鶴若狭自動車道が敦賀まで開通し、北陸自動車道とつながります。また、中部縦貫自動車道は、福井北JCTで北陸自動車道とつながります。福井県内の高規格幹線道路が連結することにより、嶺南と嶺北の各地域間の時間距離が短縮し、これまで以上に「嶺南・嶺北間の交流」が拡大することが期待されます。

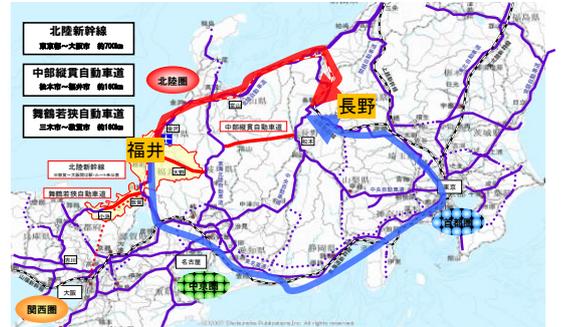
交通ネットワークの連結を活かし、人々の日常的な交流を活発化させることにより、意識や行動の面でも「嶺南・嶺北の一体化」が進むよう、県民同士のつながりを強めていく必要があります。



多重型環状ネットワーク（マルチ・ループ）の形成により、4つの効果（時短性、選択性、周回性、接続性）が生まれます。

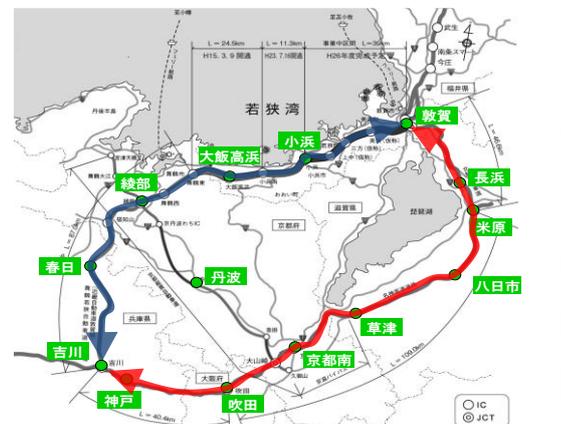
① 時短性（ぐっと「ちかづく」）

- ・新幹線金沢開業により、首都圏、北関東、信越との所要時間が短縮
- ・舞鶴若狭自動車道全線開通により、嶺南地域内、嶺南・嶺北間、嶺南と県外の所要時間が短縮
 (例) 福井・長野間が4時間20分から1時間50分に
 (2時間30分短縮)



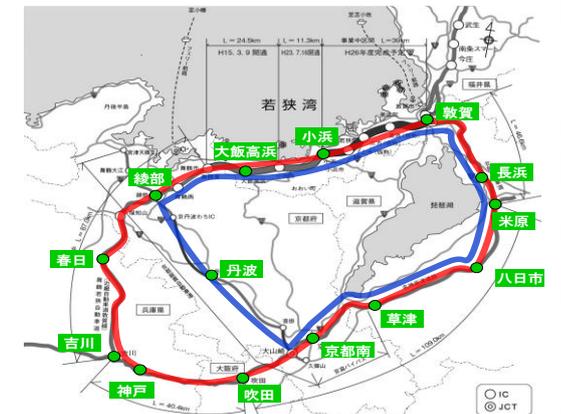
② 選択性（どちらも「えらべる」）

- ・目的地に応じてどちらのルートを利用するか選択可能に
- ・渋滞時や災害時の代替ルートを確保
 (例) 名神高速の渋滞を加味すると、敦賀・神戸間は、舞鶴若狭自動車道を選択（経由）した方が短時間で到着



③ 周回性（ぐるっと「まわれる」）

- ・放射線状のネットワークと違い、出発地に戻らず、複数の目的地を訪問可能
- ・旅行など複数の目的地を一周できる楽しさが拡大
 (例) 小浜から、敦賀、京都、大阪、神戸などへ一度で周回可能
 京都縦貫自動車道を利用すると、京都から綾部へと短縮ルートで周回可能



④ 接続性（いろいろ「つながる」）

- ・新幹線から車に乗継ぎ周遊するなど、利用するネットワークを移り変わることが可能に
- ・舞鶴若狭自動車道による嶺南への人流を嶺北へ、北陸新幹線による嶺北への人流を嶺南へと向かわせ相乗効果発揮が可能に
 (例) 外国人観光者の新ゴールデンルートとして、北陸新幹線から舞鶴若狭自動車道へとつながる羽田～金沢～あわら・敦賀・小浜～京都～関空コースが可能



(3) 全県への相乗効果

3つの環状ネットワークをつなぐことにより、それぞれの交通インフラの整備効果をさらに高めていくことが可能になります。北陸新幹線による嶺北への人・物の流れを嶺南へ、舞鶴若狭自動車道による嶺南への人・物の流れを嶺北へと導き、整備効果を県内全域に波及させることが重要です。

また、福井県と3大都市圏の時間距離が短縮し、大小さまざまなルートでつながる「多重型環状ネットワーク」の形成は、福井県と都市圏の関係の転機になります。本県が持つ「ふるさと」の良さ、価値観を大事にしながら、交流を拡大し、新しい関係を築く好機です。

観光、ビジネスのほか、就学・就労や帰省・帰住、田舎体験などの交流人口を拡大する必要があります。また、都市住民の福井県への移住や、3大都市圏に集中する企業や大学などの地方への分散を進めていくことも重要です。

第 2 部

北陸新幹線の活用・対策

1 基本的な考え方

平成26年度の北陸新幹線金沢開業は、福井県にとってチャンスであると同時に、地域間競争がさらに厳しさを増すなど、現在直面している課題がより明確になってきます。

こうした利点と課題を明らかにし、課題には速やかに対処すると同時に、利点を最大限に活かす方を講じる必要があります。こうした対策を着実に積み重ねることが、将来の北陸新幹線県内延伸に向けた「新たなまちづくり」の土台につながっていきます。

【利点】

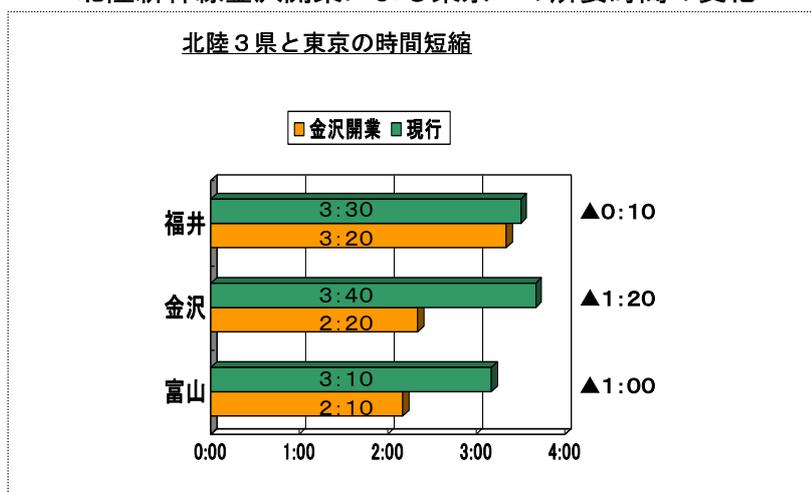
①「北陸」へのアクセス時間短縮と知名度向上

- ・北陸新幹線開業により、首都圏をはじめ沿線各地域において「北陸」の知名度が向上します。
- ・アクセス改善（時間短縮）により北陸への交流人口が増加することが期待できます。特に、北関東や信越については、大幅な時間短縮が見込まれます。

②首都圏とのアクセスが「東海道回り」と「北陸回り」の2ルートに

- ・首都圏等と福井間のアクセスは、従来の東海道回りに加え、新たに「北陸回り」が選択可能になります。日本で初めての「環状新幹線ルート」の形成が進みます。
- ・このことにより、首都圏等とのアクセスルートの「選択性」および「周回性」が生まれます。

北陸新幹線金沢開業による東京への所要時間の変化



東京・長野間は実績値、長野以西は表定速度 240km/h で試算
(北陸新幹線建設促進同盟会調査 (H10. 3) 結果を引用)

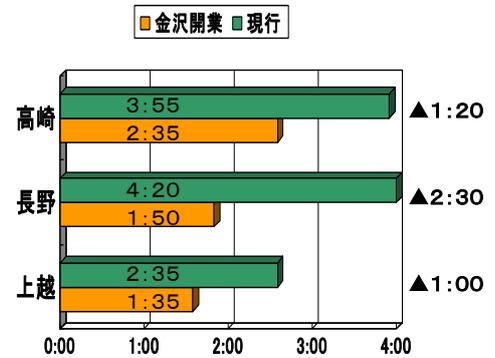
北陸新幹線金沢開業による福井から関東・信越への所要時間の変化

県内各駅からの所要時間

※網掛けは、東海道経由より北陸経由が早くなる区間

	福井		芦原温泉		武生		敦賀	
	現行	開業	現行	開業	現行	開業	現行	開業
東京	3:30	3:20	3:40	3:10	3:20	—	2:55	—
大宮	4:05	2:55	4:00	2:45	3:55	3:05	3:35	3:25
高崎	3:55	2:35	3:45	2:35	4:05	2:45	4:00	3:10
長野	4:20	1:50	4:10	1:40	4:30	2:00	4:15	2:25
上越	2:35	1:35	2:25	1:25	2:45	1:45	3:05	2:05

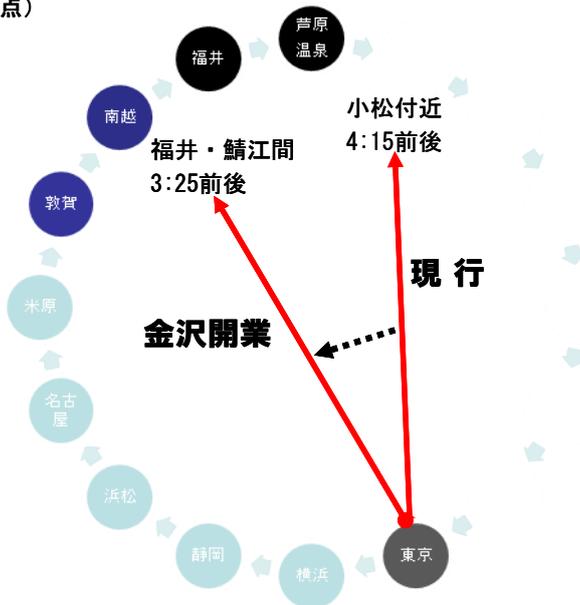
福井と信越・北関東間との所要時間



東京・長野間は実績値、長野以西は表定速度 240km/h で試算
(北陸新幹線建設促進同盟会調査 (H10. 3) 結果を引用)

福井駅以北で首都圏との鉄道利用が北陸回りにシフト

東海道・北陸経由の同一所要時間の到達点
(東京起点)



東京との所要時間 下段の[]内は大宮間

	東海道経由 (現行)	北陸経由 (金沢開業)
芦原温泉駅	3:40	3:10
福井駅	3:30	3:20
武生駅	3:20 [3:55]	3:30 [3:05]
敦賀駅	2:55 [3:35]	3:50 [3:25]

第2部 北陸新幹線の活用・対策

北陸新幹線金沢開業により想定される課題としては、次の3点があげられます。これらの解決すべき課題に対して、速やかに対策を講じます。

【課題】

①金沢・富山に比べて、時間短縮効果が限定的

- ・東京との間で1時間以上の時間短縮効果が見込まれる金沢・富山に比べて、福井の時間短縮効果は、10分程度（福井駅－東京駅間）と想定されます。単純な時間短縮効果による交流人口の増加はあまり見込めません。
- ・利便性と注目度が高まる富山、金沢ではなく、特に福井まで訪れてもらうためには、福井独自の魅力を高めることが必要不可欠です。

②終着駅となる金沢に、投資と消費の一極集中が起きるおそれ

- ・金沢では商業施設の新規立地等が進み、地価も下げ止まりの傾向を示すなど、開業効果が見え始めています。
- ・北陸新幹線の「終着駅」となる金沢に今後さらに経済活動が集中し、福井から消費や経済機能が流出するおそれがあります。

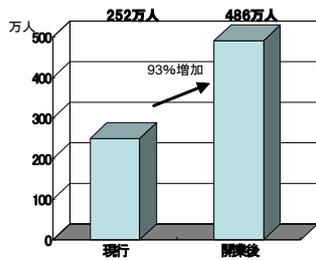
③JR特急や小松・羽田便への影響の可能性

- ・北陸新幹線の利用者が増加することにより、小松・羽田便の利用者の減少が懸念されます。現在、1日11便が就航している羽田便の維持確保が課題になります。
- ・また、「しらさぎ」や「サンダーバード」などJR特急の利便性の維持、金沢駅や米原駅における乗継ぎ利便性の確保も必要です。

北陸新幹線金沢開業による北陸3県の鉄道流動の変化（推計）

・北陸と首都圏の鉄道流動は、富山92%、93万人増、石川221%、136万人増に対し、福井県は微増(6%、5万人増。入込は10%増)

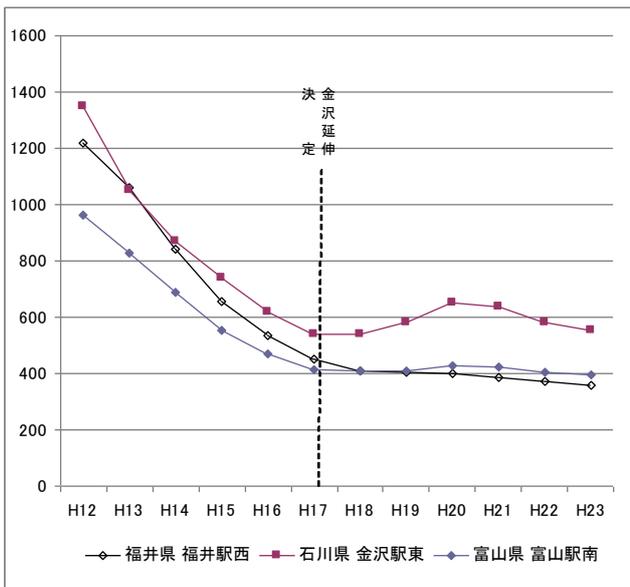
北陸3県と首都圏間の双方向の鉄道流動 うち3県、入出の内訳



	千人		
	現行	開業後	増加率
首都圏→福井	419	459	10%
福井→首都圏	467	481	3%
計	886	940	6%

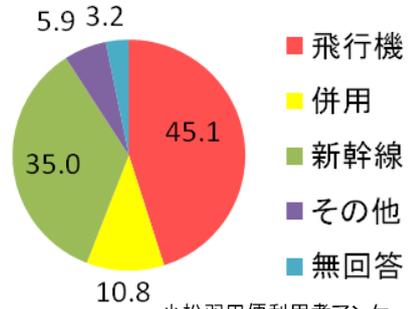
	千人		
	現行	開業後	増加率
首都圏→富山	494	971	97%
富山→首都圏	519	969	87%
計	1013	1941	92%
首都圏→石川	351	1149	227%
石川→首都圏	265	827	212%
計	616	1976	221%

北陸3県の地価（公示価格）の変化



小松・羽田便への影響

航空便への影響



小松羽田便利用者アンケート(H22)

・金沢開業後に新幹線を利用すると回答したのは35%、新幹線と飛行機を併用するとの回答は10.8%

2 活用・対策

北陸新幹線の金沢開業による利点を活かしつつ、解決すべき課題に対して、危機感を持って、早期に対処する必要があります。活用・対策の柱は以下の3つです。

(1) いかに福井に人を呼び込むか（観光・ブランド対策）

①北陸3県の連携強化により、「北陸」に人を呼び込む

福井、石川、富山の3県連携により、首都圏等から「北陸」へ人を呼び込みます。

②福井が「目的地」となるよう、福井ならではの魅力を高める

北陸の中でも「特に福井」に行ってみたいと思ってもらえるよう、他の地域にはない福井独自の魅力を向上させます。

③金沢から福井へスムーズに移動できるよう2次交通を充実する

金沢駅から福井県内への移動がしやすいよう、鉄道・バス・レンタカーなど交通機関の利便性を高めます。

(2) いかに商業の競争力を高めるか（産業・商業対策）

①地元での消費活動を促進する

新店舗の誘致や高品質の商品・サービスを提供する個店の拡大により、ショッピングの魅力を高めます。

②新たなターゲットへ県産品の販路を拡大する

金沢、首都圏、北関東など新たな交流拡大が見込まれる地域への販路開拓を拡大します。

(3) いかに在来交通の利便性を維持・確保するか（交通対策）

①3大都市圏へのアクセス利便性を維持する

首都圏、関西圏、中京圏の3大都市圏とのアクセスが引き続き維持できるよう、JR特急や小松・羽田便など在来交通の利便性確保を図ります。

(1) いかに福井に人を呼び込むか（観光・ブランド対策）

【対策(1)-1】北陸3県の連携により「北陸」に人を呼び込む

観光・ブランド対策の1つ目は、北陸3県の連携強化です。首都圏等からみた場合、福井・石川・富山は別々でなく、北陸全体を一体的な旅行圏として捉えることが予想されます。石川県、富山県とともに、「北陸3県」の一員として福井をアピールします。先行して整備新幹線が開業した九州、東北など他圏域との競合も念頭に「北陸3県」が一体となって、首都圏や北陸新幹線沿線地域から「北陸」への誘客を拡大します。

さらに、北陸新幹線利用者を福井県方面に誘導するため、北陸地域の中でも随一の温泉集積地である加賀と越前が連携を強め、「越前・加賀温泉郷」の共通イメージを前面に出し、県境を超えた一体的な観光宿泊地としてアピールしていきます。

また、北関東や信越は新たな交流のターゲットとなります。首都圏に加え、これら沿線地域への「発信力」を高め、誘客を強化します。

◆「北陸連携」と「越前・加賀連携」のテーマ観光促進

○北陸3県連携キャンペーンの実施

JRや旅行代理店等と協力し、北陸3県の行政・観光事業者等が一体となって観光誘客キャンペーンを実施します。北陸共通のイメージである日本海、海の幸、雪国、温泉など旅情を誘うコンテンツを都市部住民にアピールし、まずは「北陸」へ誘客します。

◎北陸新幹線金沢開業に合わせた「北陸3県デスティネーションキャンペーン」の開催（H27）

- ・JRと北陸3県の行政・観光事業者が一体となり、首都圏を始め全国に向けた大規模キャンペーンを実施
- ・大手旅行会社による北陸3県観光ルート商品化、旅行情報誌への掲載
- ・観光地、宿泊飲食施設などの受入体制の充実、ホスピタリティのレベルアップ 等

県
JR
関係市町
観光関係機関
商工会議所・商工会

○越前・加賀連携のテーマ観光の強化

温泉、歴史遺産など一体的な観光地を形成している加賀地域と連携し、共通の地域資源を活かしたテーマ観光によりエリア一帯の魅力を高めます。両地域の連携強化により、「金沢から能登へ」ではなく、「金沢から加賀・越前へ」の誘客を強めます。

◎越前・加賀連携の観光商品づくり（H24～）

- ・「越前加賀宗教文化街道～祈りの道～」の構築
吉崎御坊、永平寺、平泉寺、瀧谷寺、大聖寺山ノ下寺院群など両地域に点在する宗教文化資源を活用した観光商品の開発
- ・越前・加賀エリアの人気スポットを認定運転手「加賀越前観光ガイドドライバー」が案内する観光ガイドタクシーの運行
- ・越前・加賀の連携による食イベントやサイクリングイベント開催 等

関係市町
観光関係機関
タクシー事業者
県

◆「環状新幹線ルート」を活かす福井エリア周遊観光

○首都圏等からの「新・周遊切符」の企画・販売

北陸新幹線と東海道新幹線の2ルートによる日本初の「環状新幹線ルート」を活かし、両ルートの先にある福井エリアへの訪問・滞在を促す周遊切符を企画・提案します。

◎北陸新幹線・東海道新幹線の両ルートを利用できる首都圏から福井方面への周遊切符（越美北線・小浜線を含む）の企画検討（H27～）

- ・福井駅までが対象エリアである現行の「北陸フリーきっぷ」を拡充し、フリーエリアに福井以西の県内北陸本線、小浜線、越美北線を追加する周遊切符の企画検討
- ・北陸新幹線と東海道新幹線のどちらも利用可能な首都圏と福井を結ぶ企画切符の検討 等

J R 各社
観光関係機関

◆沿線各地に「福井」を売り込むブランド戦略

○首都圏等新エリアへの「福井イメージアップ」戦略

北陸連携のキャンペーンと合わせ、首都圏や北関東・信越などで「福井」の情報発信を強化し、認知度を向上させるブランド営業を展開します。

◎首都圏、北関東・信越など新エリアでの営業強化（H24～）

- ・新たなターゲットである北関東・信越の観光事業者や地元メディア等への「チーム福井」による観光・ブランド営業
- ・「南青山291サテライト店」の開設等による福井のPR強化
- ・金沢における本県観光・物産の情報発信等の強化 等

観光関係機関
県
関係市町

◎「恐竜」等を活用した誘客プロモーション強化（H24～）

- ・「恐竜ブランド」を活用した首都圏等における大型誘客イベントの実施（恐竜化石展示展の拡充等）
- ・発信力の高い「福井の食」ブランドを活用。グルメ情報（コシヒカリ、越前がに、越前おろしそば、ソースカツ丼、地酒など）の発信強化
- ・企業等とのタイアップや書籍、TV等を活用したPRによる、ふくいブランドの発信力強化
- ・北関東・信越など海のない地域からの教育体験旅行の誘致
- ・池田町やコウノトリの育つ里など自然環境のよさと農林水産業体験を目玉とする「エコ・グリーンツーリズム」を拡充し、都市部へのPR強化 等

観光関係機関
県
関係市町
飲食関係事業者
農林水産関係事業者

◎観光情報ポータルサイトの全面リニューアル（H24～）

- ・福井県の観光情報ポータルサイト「ふくいドットコム」の全面リニューアル（個店情報の発信強化、スマートフォン対応等）
- ・SNS（ソーシャル・ネットワーク・システム）などを活用した口コミ情報の発信強化 等

観光関係機関
県
関係市町
IT・広告関係事業者

【対策(1)-2】福井が「目的地」となるよう、福井ならではの魅力を高める

観光・ブランド対策の2つ目は、福井独自の魅力向上です。観光客に福井を訪れてもらうには、金沢や富山にはない「福井だけの魅力」が必要です。

食べ物が美味しく、海山の自然が豊かで、人々のつながりが深い。福井は「幸福度日本一」との調査結果もあり、さまざまな分野で全国トップクラスの豊かさを誇っています。福井の最大の特徴と魅力は、「ふるさとの良さが残る“豊かな田舎”」であること。「にっぽんのふるさと」とでも言うべき福井のイメージを前面に出し、訪れる人が心からほっとできる空間や時間を提供することが重要です。

さらに、金沢や富山にはない福井独自の観光資源を磨き上げ、競争力を高めます。戦国城下町の遺跡として全国から注目されている「一乗谷朝倉氏遺跡」や世界3大恐竜博物館の一つと言われる「福井県立恐竜博物館」など、親子連れからシニア世代まで幅広く人気を集める観光拠点を、さらに拡充整備します。こうした観光拠点を核に、あわら温泉、永平寺、東尋坊などの伝統ある観光地を結んで、県内周遊を拡大します。

また、福井の誇る「食ブランド」をさらに磨き上げ、観光の一番の楽しみである「美味しい食」を県内各地で提供します。こうした魅力を磨き、それぞれの市町において、「着地型観光」の商品づくりを進めます。

◆「一乗谷朝倉氏遺跡」を全国一のフィールドミュージアムに

○一乗谷朝倉氏遺跡のレベルアップ

国の特別史跡「一乗谷朝倉氏遺跡」における発掘調査の成果を活用し、より多くの観光客にその魅力を伝えるための環境整備を進め、エリア全体の魅力を高めます。

◎一乗谷朝倉氏遺跡資料館の「総合案内ステーション化」(H24～)

- ・「戦国城下町のまちづくり」を学び、体感するフィールドミュージアムの拠点施設として再整備
- ・資料館入口のゲート表示の整備、展示解説スタッフの充実、遺跡コンシェルジュの設置
- ・近年の研究成果に基づく復元展示や最新のIT技術を活用した遺跡出土品の展示
- ・遺跡外での駐車場の拡充整備、資料館と遺跡内をつなぐバス運行 等

県
福井市
観光関係機関

◎遺跡全体を眺望する「物見台」の整備など史跡公園の魅力向上(H24～)

- ・一乗谷城下町全体を眺望する展望地点「物見台」を新たに整備し、史跡内の見所を巡回する散策ルートをPR
- ・遺跡内は俗化させず、資料館周辺に観光機能を集約、食や土産物のレベルアップ
- ・朝倉戦国まつりや越前朝倉万灯夜、戦国衣装パフォーマンスなどのイベントを拡充開催 等

県
福井市
観光関係機関

○一乗谷朝倉氏遺跡を含めた県内各地への多彩な旅

一乗谷朝倉氏遺跡を含む「やまぎわ天下一街道」の観光ルートを活かす旅行商品の企画・販売を強化します。整備が進む「中部縦貫自動車道」や、美濃街道・北国街道などの「歴史街道」を利用し、奥越地域や丹南地域のさまざまな観光地へつなげます。各観光地において、人のつながりや田舎の良さを活かして観光客を温かくおもてなしし、リピーター確保につなげます。

◎中部縦貫自動車道や歴史街道の活用による県内周遊の促進（H24～）

- ・一乗谷朝倉氏遺跡から国道158号や中部縦貫自動車道等を利用し、奥越方面（永平寺、恐竜博物館、平泉寺、大野城下町、九頭竜ダムなど）への周遊観光ルートを開発
- ・永平寺を中心とした門前まち歩き観光や体験プログラムなど、観光メニューの充実
- ・北国街道等に沿って、丹南方面（池田、うるしの里、西山公園、和紙の里、越前打刃物、今庄宿、越前陶芸村など）への周遊観光を促進
- ・主要観光地をつなぐ「ふくいやまぎわ天下一街道」、「越前たくみ街道」等のPR強化
- ・越前美濃街道広域観光交流推進協議会（福井市、大野市、郡上市、美濃市）による食の交流、新観光ルート開発等の実施
- ・戦国時代、伝統工芸、四季の花、民俗芸能など、多様なテーマの祭りを各地で開催 等

関係市町
観光関係機関
県

◆「恐竜キッズランド構想」の推進

○野外博物館・まちなかダイノスクエア等の整備

子どもから大人まで幅広い人気の「恐竜」は、福井だけの強力なブランドです。「福井県立恐竜博物館」を中心に、最新の研究成果に基づく専門的な展示と本物の発掘体験フィールドとしての魅力を高めます。化石発掘現場を「野外博物館」とするなど、エリア全体を年間通じて楽しめる「恐竜キッズランド」として拡充整備します。

◎化石発掘現場や街なかを活用した恐竜王国の魅力拡大（H24～）

- ・化石発掘現場の野外博物館化、恐竜レプリカ工房の整備
- ・まちなかダイノスクエア（恐竜グッズショップ等）の設置など恐竜ビジネスの拡大
- ・MR（ミクストリアリティ）を活用した恐竜コンテンツの開発
- ・化石発掘体験のほか、白山、雪などを活かしたジオパークツアー開催
- ・北陸新幹線金沢開業にあわせて、平成27年度に恐竜博物館の特別展を拡大実施 等

県
関係市町
観光関係機関

◆「海と湯けむり観光プロジェクト」の推進

○温泉泊覧会（オンパク）と体験型観光の拡充

平成26年度には、「あわら温泉開湯130周年記念イベント」を開催、首都圏等において「あわら温泉」の知名度を高め、金沢開業後の誘客強化につなげます。宿泊飲食業や観光関係機関が連携し、温泉泊覧会（オンパク）を充実するとともに、あわら温泉や三国湊、東尋坊など、エリアを巡回する交通手段を確保し、宿泊者がまち歩きや体験イベントを楽しめる周遊滞在型エリアへとレベルアップします。

◎食と海と温泉を中心とした周遊滞在型観光地に向上（H24～）

- ・あわら温泉開湯130周年となる平成26年度に、温泉泊覧会（オンパク）のプログラム内容を拡充し、記念イベントを開催
- ・温泉旅館や地元飲食施設における「食とおもてなし」のサービスを最高水準へ向上、オリジナルお土産の開発
- ・あわら温泉を拠点に観光地等を結ぶエリア内循環バスの運行
- ・三国湊のまちあるきや観光農園など周辺の体験ゾーンの充実
- ・越前がに、甘エビをはじめ豊富な海の幸とスイセンを楽しむ「越前加賀海岸国定公園」沿いルート（国道305号、しおかぜライン）の観光機能充実、道の駅整備
- ・越前海岸からホノケ山トンネルを通過して南条スマートICへと続く海、里、山をつなぐ観光ルートの活用 等

宿泊飲食施設
観光関係機関
あわら市
坂井市
福井市
越前町
南越前町
県

◆食べ物日本一美味しい「食の國ふくい」の発信

○食の発信力強化と新たな食の開発

山海の幸や郷土料理、地酒や伝統工芸の器、食文化など、福井が誇る「食ブランド」をさらに磨き上げ、「福井と言えば美味しい食」という評価をさらに高めます。

◎トップブランドからご当地グルメまで食の魅力向上（H24～）

- ・一流シェフによる県産食材を使ったメニュー開発や、福井の食の良さを専門家が評価し、県外に向けて発信するなど、食のブランド力強化
- ・首都圏の百貨店や有名レストラン等における県産品、県産食材の売込み強化
- ・旬の料理や食文化、伝統工芸の器等、福井のトップレベルの食を味わい学ぶ「食の観光」の推進
- ・全国高校食育王選手権大会や全日本素人そば打ち名人大会など、食のイベントを集中開催する「ふくい味の週間」の実施
- ・地元食材を使ったオリジナルメニュー・ご当地グルメの開発推進 等

宿泊飲食施設
農林水産関係事業者
商工会議所・商工会
観光関係機関
関係市町
県

◆県都福井をはじめとする各都市の玄関口整備

○JR各駅周辺のまちづくり

北陸新幹線利用者にとって、JR各駅周辺は福井訪問の玄関口となります。特にJR福井駅前には県都の玄関口として、にぎわいの強化と利便性の向上が必要です。県と福井市がともに進める「県都のデザイン戦略」策定とあわせ、北陸新幹線県内延伸も見すえた新たなまちづくりを進めます。また、JR沿線の各駅周辺など、県内各地の交通結節点を中心に、新幹線新時代に向けたまちづくりを進めます。

◎県都のまちづくり（H24～）

- ・ 県民参加による「県都デザイン戦略」の策定
- ・ 福井駅西口再開発、駅周辺土地区画整理事業の整備促進
- ・ 福井駅から徒歩圏内の歴史文化資産（福井城址、養浩館庭園、柴田神社等）をつなぐ散策ルート整備。「花と緑」やライトアップを組み合わせることで散策の魅力向上
- ・ 中心市街地におけるWi-Fi環境整備と街なか観光情報の発信
- ・ 足羽川、足羽山の散策ルート整備や水辺に親しむイベント開催 等

福井市
県
商業関係者
観光関係機関

◎新幹線新時代に向けた県内各都市のまちづくり（H24～）

- ・ JR沿線の各市町における駅周辺の整備とまちづくり推進（芦原温泉駅前のにぎわい拠点整備、敦賀駅の駅前広場整備など）
- ・ JR芦原温泉駅、鯖江駅のバリアフリー化の推進
- ・ 福井駅から鉄道ネットワーク（えちぜん鉄道、福井鉄道、越美北線）でつながる各市町の駅周辺整備とまちづくり推進 等

関係市町
県
JR
商業関係者
観光関係機関

【対策(1)-3】金沢から福井へスムーズに移動できるよう2次交通を充実する

観光・ブランド対策の3つ目は、金沢駅からの交通対策です。福井が目的地となるよう魅力を高めると同時に、福井までスムーズに来ていただけるよう、金沢からの移動手段を便利にする必要があります。

首都圏等からの北陸新幹線利用客に福井県まで来てもらうには、金沢駅でのJR在来線への乗継ぎが分かりやすく便利でなければなりません。また、福井県内の観光地等への直通バスやレンタカーなど多様な交通手段を用意し、さまざまなニーズに対応する必要があります。JRをはじめとする交通関係事業者への働きかけを速やかに行い、金沢から福井へのスムーズな移動手段を確保します。

◆金沢から福井へのスムーズ移動

○金沢駅からの鉄道・バス・レンタカーのスムーズ接続

金沢駅から福井へスムーズに移動できるよう、分かりやすく便利な乗継交通手段を鉄道・バス・レンタカーなどニーズに合わせて複数確保します。

◎金沢駅から観光地への直通バスの運行（H27～）

- ・金沢駅から県内主要観光地への直通バスの運行検討 等

バス事業者
観光関係機関

◎県境を越える「乗り捨てレンタカー」の導入（H26～）

- ・金沢駅から福井県内に乗り入れ、県境を越えて県内各地で乗り捨てる場合の追加料金を軽減する「乗り捨てレンタカー」の導入検討
- ・レンタカー付き宿泊プランの企画・販売 等

レンタカー事業者
観光関係機関

◎金沢駅におけるJR在来線の接続利便性確保（H27～）

- ・金沢駅で北陸新幹線からスムーズに乗り継げるよう、JR特急の便数維持と接続利便性の確保、分かりやすい案内表示等をJRへ要請
- ・早朝（9時頃着から毎時1便程度）に東京に到着する北陸新幹線の運行と福井からの接続便を確保するようJRへ要請
- ・夜間（毎時1便程度、最終便は21時頃発）に東京を出発する北陸新幹線の運行と福井への接続便を確保するようJRへ要請 等

JR
県
商工会議所・商工会
観光関係機関

◆県内周遊を伸ばす2次交通の充実

○県内らくらく周遊の拡充

福井県内に来られた方がさらにその先、県内各地の観光地を巡るには、2次交通がわかりやすく便利である必要があります。金沢から福井への移動手段確保と合わせ、JR福井駅と県内観光地や、県内観光地間を結ぶ鉄道・バスなど2次交通の利便性を向上させます。

◎県内観光地をつなぐ鉄道・バスの利便性向上（H24～）

- ・福井駅と一乗谷朝倉氏遺跡、永平寺を結ぶ「朝倉・永平寺ライナー」の運行
- ・福井駅と一乗谷駅を往復する観光シャトル列車の運行検討
- ・あわら温泉と恐竜博物館等を結ぶ直通バスの運行検討
- ・県内交通事業者（JR、地方鉄道、バス）による周遊フリー切符の企画検討 等

JR
バス事業者
鉄道事業者
観光関係機関
県
商工会議所・商工会

(2) いかに商業の競争力を高めるか（産業・商業対策）

【対策(2)-1】地元での消費活動を促進する

産業・商業対策の1つ目は、地元福井における消費活動の促進です。20歳代、30歳代を中心に、金沢など県外で買い物をする方が多くいます。（20歳代の67%、30歳代の57%は、半年に1度以上県外で買い物）

商業施設の集積が進む金沢と差別化を図り、「食」を中心に地元の特徴を活かし、魅力を高める工夫が必要です。魅力ある店舗の開設を進めるとともに、意欲のある個店を応援し、地元消費の拡大を図ります。

◆新たな顧客を呼び込む魅力ある店舗の開設

○新店舗の開設、「街なか起業」の促進

ショッピングや飲食を楽しむためには、新たな商品・サービスを扱う魅力ある店舗が必要です。県外一流店などで修業した意欲ある商業者の起業を支援するとともに、素材の良さを生かした福井の食を提供する店舗の開設を促進します。

◎街なか起業等による魅力ある店舗の開設（H24～）

- ・海外や都市部の一流レストランや料亭等での修業を終えた商業者の開業を支援
- ・福井の食を提供・PRする店舗の開設や魅力ある店舗の集積
- ・若者等を対象に「街なか起業」に必要なトータルな起業講座を開催
- ・街なかの交流機能を高めるオフィス誘致を強化 等

商業関係者
まちづくり会社
商工会議所・商工会
関係市町
県

◆高品質な商品・サービスの提供

○意欲ある個店のレベルアップ

県外一流店における修業や、全国で通用する逸品づくりの応援等により、高品質な商品・サービスを提供する個店を増やします。また、ITを活用した情報発信などにより、県内においても高品質の商品が販売されていることを周知し、「福井で買う」意識・行動への変化を促します。

◎高品質な商品・サービスを提供する店舗の拡充（H24～）

- ・一流の技や味を学ぶ県外一流店での修業支援
- ・「福井の逸品」を一堂に集めた「ふるさと逸品フェスタ」の開催
- ・一流のサービス・おもてなしを学ぶ接客研修の実施
- ・ITを活用した商品や店舗のロコミ情報の発信 等

商業関係者
まちづくり会社
商工会議所・商工会
関係市町
県

【対策(2)-2】新たなターゲットへ県産品の販路を拡大する

産業・商業対策の2つ目は、北陸新幹線金沢開業によりアクセスが向上する首都圏、北関東・信越などとのビジネス拡大です。交流人口増が見込まれる金沢も新たな市場として期待されます。首都圏や北関東などでは、福井県の認知度は決して高くなく、商取引もさらに増やす余地があります。これらの新たな顧客へのアプローチを強め、県内企業のビジネス拡大や県産品の販路開拓を進めます。

◆交流人口が増加する金沢への販路拡大

○金沢におけるビジネス拡大

北陸新幹線金沢開業により、首都圏から石川県、富山県への交流人口が大幅に増加することが予想されます。近隣県への交流人口増加をチャンスととらえ、特に終着駅効果が見込まれる金沢において、ビジネス拡大と県産品の販売強化を図ります。

◎金沢へのビジネス営業強化（H24～）

- ・本県企業の金沢等への出店・開業をバックアップ
- ・JR金沢駅等において「福井の特産品」販売店舗を確保 等

商業関係者
商工会議所・商工会
県

◆首都圏、北関東、信越とのビジネス強化

○首都圏等における「福井の逸品」販売強化

首都圏等における北陸・福井の知名度向上を活かし、繊維、眼鏡、伝統工芸、食など福井の特産品の販売を強化します。また、時間距離が大幅に短縮する北関東や信越の経済関係者間の相互交流など、従来取引の少なかった地域とのビジネスを拡大します。

◎首都圏等における県産品販売（H24～）

- ・首都圏の百貨店や有名レストラン等における県産品、県産食材の売込み強化〔再掲〕
- ・「南青山291サテライト店」の開設等による福井のPR強化と新たな顧客の獲得、県産品の販路拡大〔再掲〕
- ・本県企業の首都圏等への出店・開業をバックアップ
- ・北陸新幹線車両内装への県産品活用、福井特産駅弁の販売 等

商業関係者
商工会議所・商工会
観光関係機関
県

◎北関東・信越とのビジネス交流強化（H24～）

- ・北関東・信越の商工団体等へのビジネス営業、商談会の開催
- ・北関東地域に集積する電気・電子部品や自動車・中小医療機器メーカー等との商談会開催 等

商業関係者
商工会議所・商工会
観光関係機関
県

(3) いかに在来交通の利便性を維持・確保するか（交通対策）

【対策(3)-1】3大都市圏へのアクセス利便性を維持する

北陸新幹線金沢開業、舞鶴若狭自動車道全線開通などにより、福井県は、首都圏、関西、中京の3大都市圏とそれぞれ2～3時間圏内のネットワークで結ばれます。「環状ネットワーク」による各都市とのアクセス向上のメリットを最大に発揮するには、JR特急や航空便など在来交通の利便性維持が必要不可欠です。

JR特急については、金沢からの乗継ぎ利便性を確保するほか、「しらさぎ」の東海道新幹線との接続や、京都・大阪へのアクセスの柱となる「サンダーバード」について、JR各社と十分協議し、利便性の維持・確保を図ります。

また、航空から鉄道へのシフトにより利用者の減少が懸念される小松・羽田便については、石川県と連携し、利用者の利便性を高める方策を講じるとともに、航空会社に対し、利便性の維持・確保を求めています。

◆ JR特急の利便性維持・確保

○ 「しらさぎ」「サンダーバード」の利便性維持・確保

新幹線利用が「東海道回り」から「北陸回り」にシフトすることにより、「しらさぎ」の利用者の減少が懸念されます。特に、米原における東海道新幹線への接続について、現在の利便性の維持・確保を求めています。「サンダーバード」については、金沢駅における北陸新幹線とのスムーズな接続が可能になるよう、JRに対し要請を行っていきます。

◎ 「しらさぎ」「サンダーバード」の利便性維持・確保（H27～）

- ・「しらさぎ」の利便性維持と米原における東海道新幹線への接続利便性の維持・確保をJRに要請
- ・米原停車の東海道新幹線の維持・確保をJRに要請
- ・東海道回りと北陸回りの2ルートを選択利便性を高めるため、福井駅を基準とした場合、双方向に交互運行されるダイヤ編成となるようJRに要請 等

JR
県
商工会議所・商工会

◎ 金沢駅におけるJR在来線の接続利便性確保（H27～）[再掲]

- ・金沢駅で北陸新幹線からスムーズに乗り継げるよう、JR特急の便数維持と接続利便性の確保、分かりやすい案内表示等をJRへ要請
- ・早朝（9時頃着から毎時1便程度）に東京に到着する北陸新幹線の運行と福井からの接続便を確保するようJRへ要請
- ・夜間（毎時1便程度、最終便は21時頃発）に東京を出発する北陸新幹線の運行と福井への接続便を確保するようJRへ要請 等

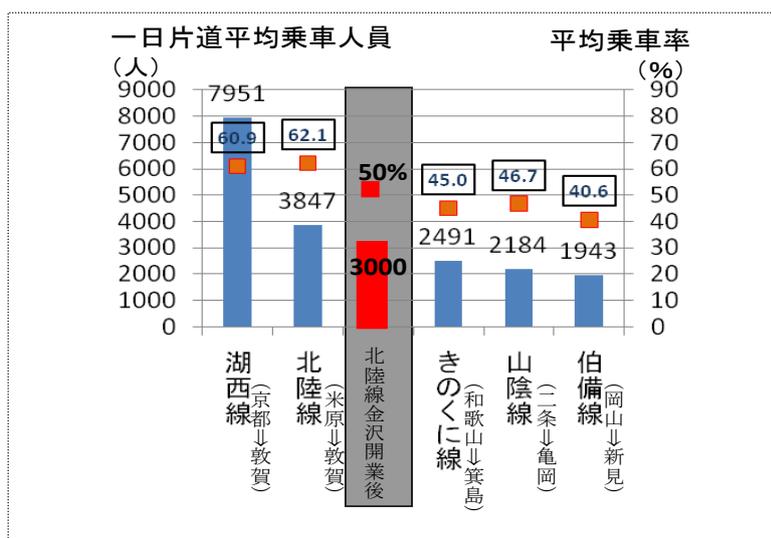
JR
県
商工会議所・商工会
観光関係機関

第2部 北陸新幹線の活用・対策

(参考)

- 「しらさぎ」については、現在の北陸線（米原⇒敦賀間）の一日あたりの平均乗車人員は約3,800人ですが、これが約800人減少し、一日平均で約3,000人となると推計されます。県推計による平均乗車率は62%から50%に低下しますが、利便性を低下させないよう、JRとの協議・要請を行っていきます。
- 「サンダーバード」については、関西と信越間の交流人口の増加により、湖西線（京都⇒敦賀間）の一日当たりの平均乗車人員は約7,900人から約8,700人になると推計されます。平均乗車率は61%から68%に上昇し、JRにとっても従来以上に重要な路線となると考えられます。利便性の維持・確保とあわせ、金沢駅における北陸新幹線とのスムーズな接続が可能になるよう、JRに対し要請を行っていきます。

JR西日本の在来特急の現状と影響（福井県推計）



◆小松・羽田便の利便性維持・確保

○小松・羽田便の利便性維持・確保

小松空港協議会が平成22年度に実施した小松空港利用者へのアンケートによれば、北陸新幹線金沢開業後も引き続き航空便を利用するとした人が約45%、航空便と新幹線を併用するとした人が約11%、新幹線を利用するとした人が35%でした。特に石川県の利用者が北陸新幹線へシフトすることが予想され、小松・羽田便の利用者減少による便数への影響が懸念されます。石川県と連携し、航空会社に対して利便性の維持・確保を要請していきます。

また、羽田から国際線や国内線への乗継利便性を高め、ビジネス・観光客が、国内外の主要都市へスムーズにアクセスできるよう、航空会社へ要請していきます。

◎小松・羽田便の利便性確保・利用促進（H24～）

- ・1日11便が往復就航している小松・羽田便について、機材の小型化等により、利便性を維持するよう航空会社へ要請、関係機関によるワーキンググループを設置し対策を協議
- ・小松・羽田便の羽田乗継割引の拡充などによる国内外の都市とのアクセス向上を航空会社へ要請
- ・福井駅・福井北インターチェンジ付近に駐車場を確保し、空港連絡バスへのパーク&ライドを促進
- ・旅行企画など、小松発・羽田空港乗継便の活用方法を周知し、利用を促進 等

航空会社
県
商会議所・商工会
観光関係機関
バス事業者

（参考）

- 現在1日11便が往復就航している小松・羽田便の平成22年度の輸送実績は、150万人、座席利用率は62%となっています。小松・羽田便の1便当たりの平均座席数は、304席と比較的大型の機材が使用されています。新幹線と競合する他の路線、例えば大阪・福岡便の平均座席数は136席であり、座席利用率が62%、1日12往復が就航しています。このため、使用機材の小型化も視野に入れた上で、利便性の維持・確保を求めていく必要があります。

平成22年度路線別輸送実績

路線名	輸送実績	便数	座席利用率	1便当たり平均座席数
小松－羽田	149.6万人	11往復	61.7%	304席
大阪－福岡	75.6万人	12往復	62.2%	136席
富山－羽田	74.9万人	6往復	65.5%	264席
宇部山口－羽田	73.5万人	8往復	60.2%	209席

国土交通省 航空輸送統計年報より作成

第2部 北陸新幹線の活用・対策

第 3 部

舞鶴若狭自動車道の活用・対策

1 基本的な考え方

平成26年度の舞鶴若狭自動車道全線開通は、福井県にとって大きなチャンスです。全線開通により、移動時間が30分以上短縮し、嶺南地域のアクセス利便性が格段に向上します。嶺南地域が一つの幹線自動車道でつながり、地域内の交流や往来がこれまで以上に活発化します。

また、舞鶴若狭自動車道が敦賀で北陸自動車道と連結することにより、本県の長年の課題であった「嶺南・嶺北の一体化」が大きく進展します。舞鶴若狭自動車道の全線開通および中部縦貫自動車道の整備促進は、県内各地域へのアクセスを格段に高め、移動の利便性を大きく向上させます。限定的であった嶺南・嶺北間の人の流れを大幅に増やす好機です。

さらに、これまでも距離的に近く、つながりの深かった関西・中京との時間距離がさらに短縮します。関西・中京にとっては、嶺南は「今でも近い」地域ですが、舞鶴若狭自動車道の全線開通により、「もっと近い」地域になります。また、関西・中京に加え、中国・四国地域との時間距離が短縮することから、新たな地域との一層の交流拡大が期待されます。

また、同じく平成26年度には北陸新幹線の金沢開業が予定されています。嶺南地域にある「歴史・文化」や「海」、「食」などの独自の魅力は、新幹線利用者にも大きな誘引力となります。舞鶴若狭自動車道の全線開通を機に、こうした特長に磨きをかけ、首都圏や北関東などからも多くの人々を嶺南地域に呼び込んでいきます。

【利点】

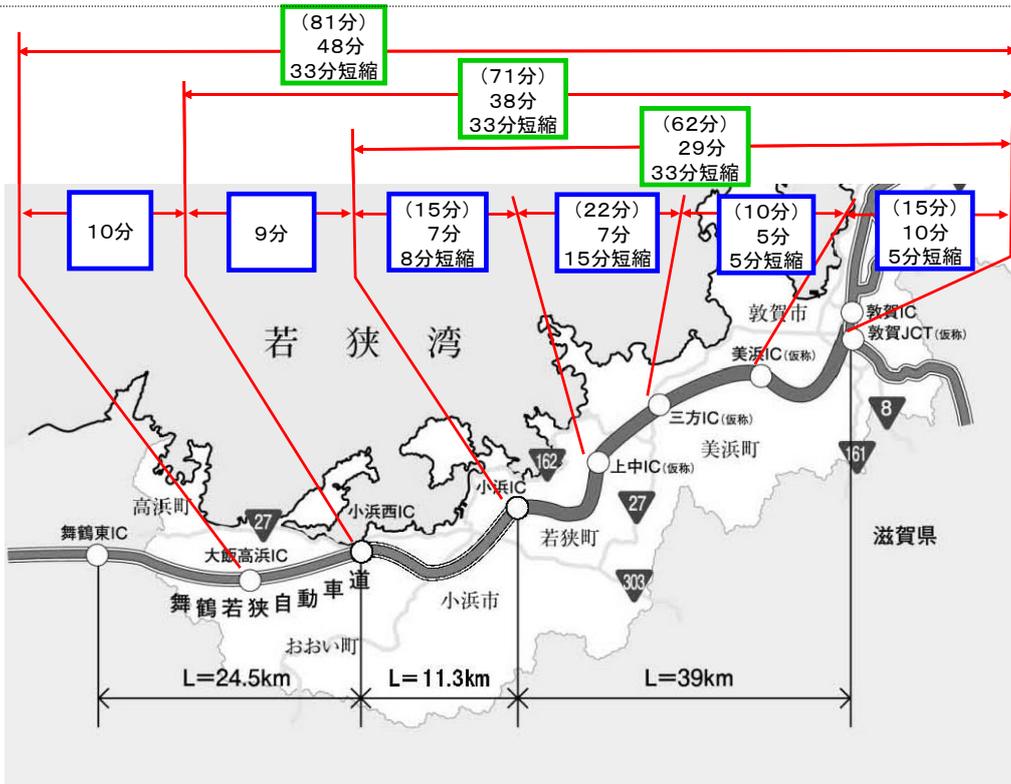
① 嶺南地域内および嶺南・嶺北間の時間距離が短縮

- ・舞鶴若狭自動車道が敦賀まで延伸し、北陸自動車道と連結することにより、嶺南地域内の移動は概ね50分以内になります。また、嶺南・嶺北の主要都市間の移動時間が概ね100分以内になります。
- ・こうした実際の時間距離の短縮に加え、走行性の向上や国道27号の渋滞緩和により、心理的にも距離が近くなることが期待できます。

② 関西・中京に加え、中・四国からのアクセス向上

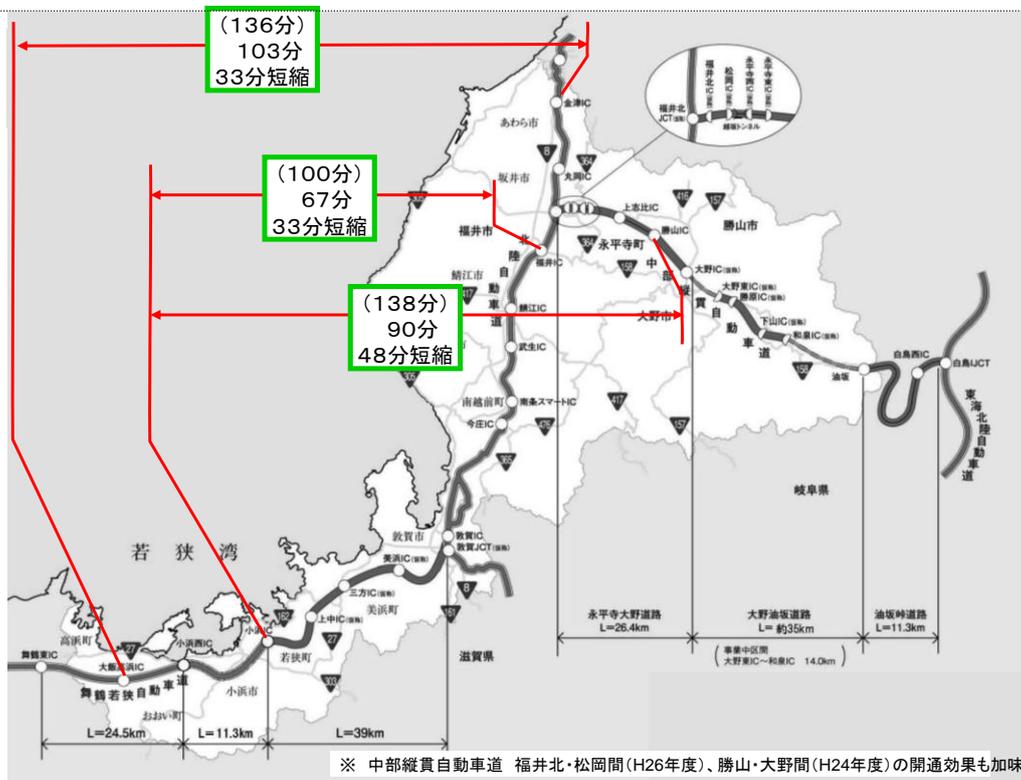
- ・名古屋から小浜までが約2時間に、中国（岡山）・四国（徳島）から敦賀までが3時間台に短縮されます。
- ・関西と嶺南地域は、舞鶴若狭自動車道と名神・北陸自動車道でつながり環状ネットワークを形成します。2つのルートができることにより、ルートの「選択性」と「周回性」が生まれます。

舞鶴若狭自動車道全線開通による嶺南地域内での移動時間短縮



※小浜・敦賀間が33分短縮され、嶺南地域内の所要時間が48分になります。

舞鶴若狭自動車道全線開通による嶺南・嶺北間での移動時間短縮

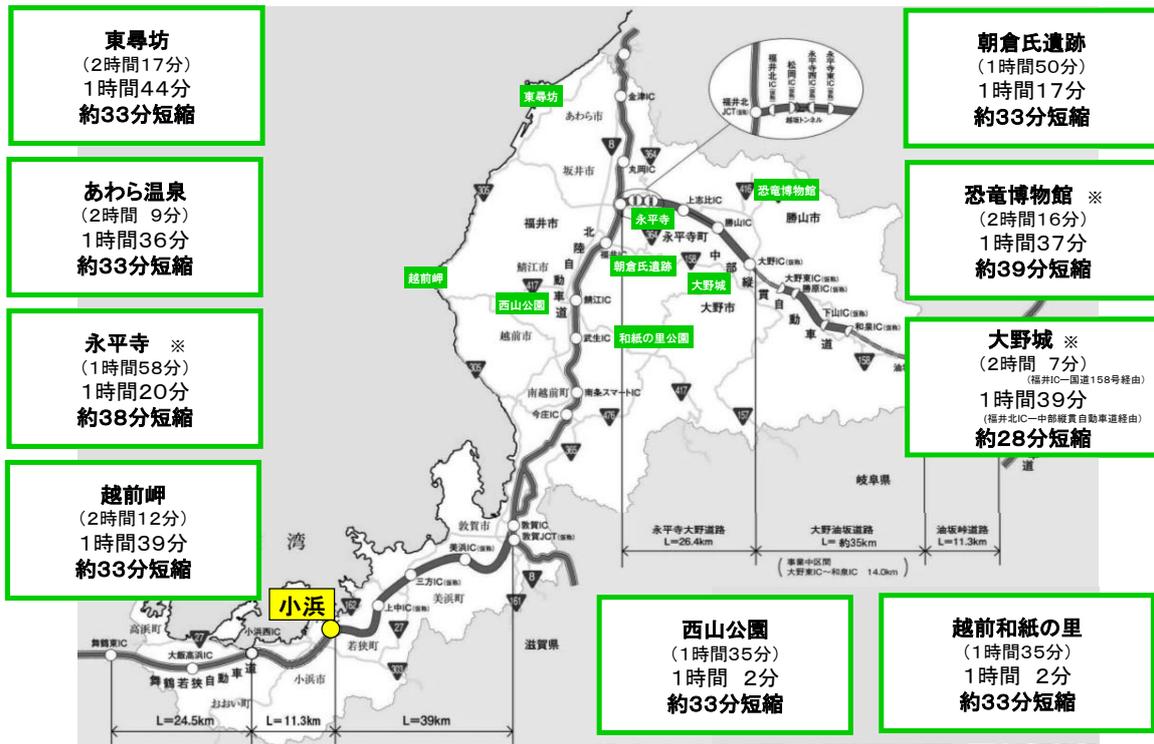


※ 中部縦貫自動車道 福井北・松岡間(H26年度)、勝山・大野間(H24年度)の開通効果も加味

※小浜・大野間が48分短縮され、県内全域の主要都市間の所要時間が概ね100分以内になります。

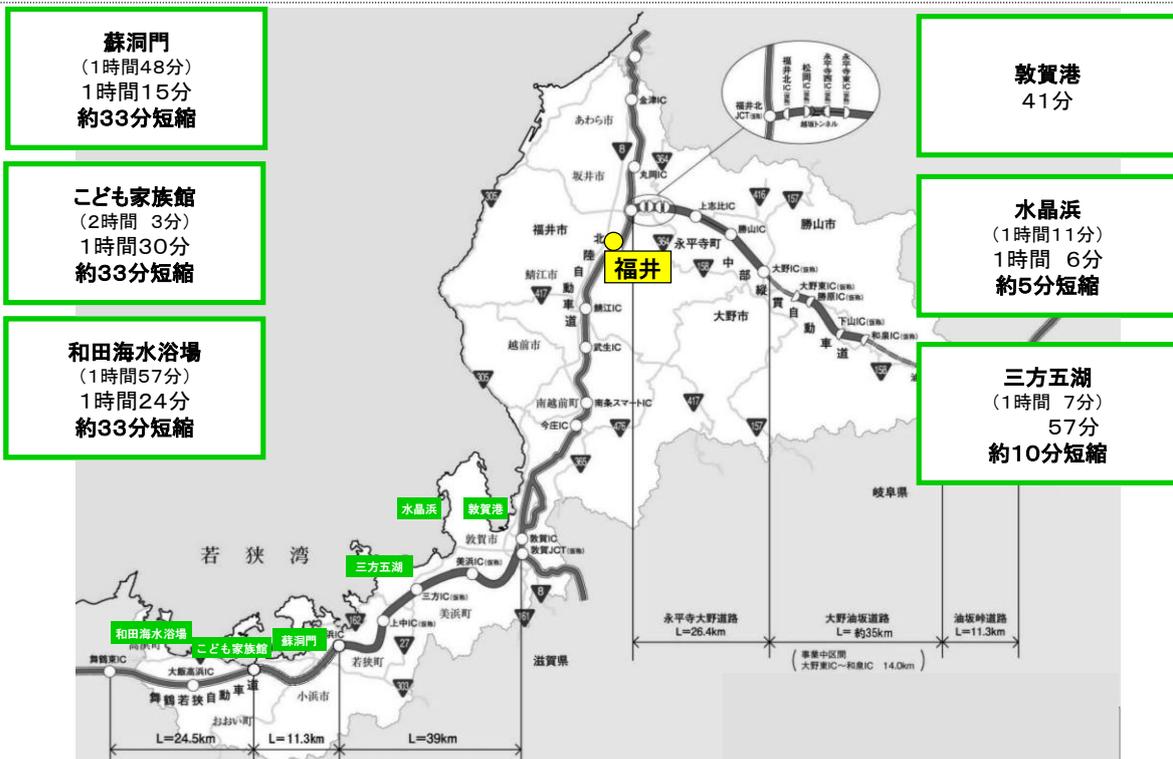
第3部 舞鶴若狭自動車道の活用・対策

舞鶴若狭自動車道全線開通による嶺南（小浜）から嶺北観光地への移動時間短縮



※あわら温泉、大野城など、小浜から2時間以上かかった観光地が1時間半程度になります。

舞鶴若狭自動車道全線開通による嶺北（福井）から嶺南観光地への移動時間短縮



舞鶴若狭自動車道全線開通による小浜から県外への移動時間短縮



※ 科学警察研究所(警察庁附属機関)、NEXCO、JAF等は、2時間ごとの車の休憩を推奨

※小浜から神戸、京都、名古屋、金沢への所要時間がいずれも2時間以内になります。

舞鶴若狭自動車道全線開通による敦賀から県外への移動時間短縮



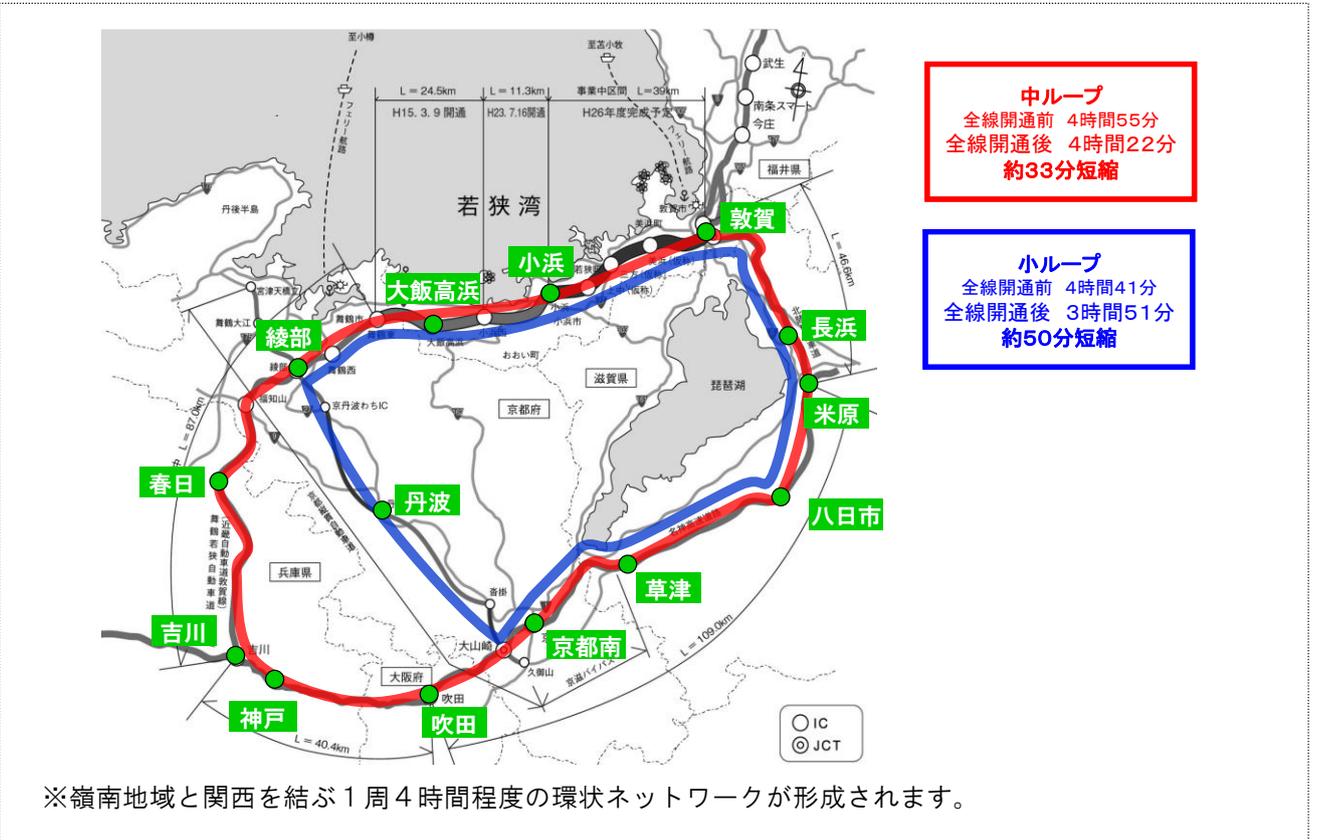
※敦賀から岡山、鳴門、和歌山への所要時間がいずれも3時間台になります。

第3部 舞鶴若狭自動車道の活用・対策

舞鶴若狭自動車道と北陸自動車道・名神高速による所要時間比較



舞鶴若狭自動車道・京都縦貫自動車道開通による2つの環状ネットワーク形成



2 活用・対策

舞鶴若狭自動車道全線開通の利点を最大限に活かすため、次の3つの観点から、対策を実施します。

(1) いかに嶺南・嶺北間の交流を増やすか（嶺南・嶺北の一体化）

①まちづくり、人づくりで嶺南・嶺北の相互交流を増やす

住民主体のまちづくり活動の活発化により、地域の魅力を高め、子どもから大人まで、相互の交流を増やします。

(2) いかに嶺南に人を呼び込むか（観光・ブランド対策）

①嶺南が目的地となるよう、「歴史・海・食」の豊かさを活かして魅力を高める

豊かな歴史・文化遺産や、若狭の海、食を活かした魅力づくりで、嶺南に人を呼び込みます。

②魅力を伝え、舞若道から嶺南各地へ誘導する

嶺南の街なかへと向かうよう、嶺南一帯の魅力を伝えるとともに、誘導拠点づくりなどの方策を展開します。

(3) いかに経済活動を活発化させるか（産業・貿易対策）

①ターゲット企業を定めて誘致を強化する

関西、中京の企業集積、消費市場を踏まえてターゲット企業を設定し、集中的に営業を行います。

②敦賀港利用のポートセールスを強化する

舞鶴若狭自動車道の時短性、定時性の向上を活かし、スピード重視の貨物を扱うRORO船のポートセールスを強化します。

(1) いかに嶺南・嶺北間の交流を増やすか（嶺南・嶺北の一体化）

【対策(1)-1】まちづくり、人づくりで嶺南・嶺北の相互交流を増やす

舞鶴若狭自動車道の全線開通を機に、県内の相互交流を増やし、意識や行動の面においても「嶺南・嶺北の一体化」を進めます。

まずは、子どもたちの嶺南・嶺北の相互訪問・交流を拡大します。子どもたちが普段とは違った風景を見たり、体験をする機会を増やすことにより、広くふるさとについて理解を深めます。また、県内各地域で、町並み保存や景観づくり、新たな特産品開発などを進め、地域の魅力を高め発信することにより、嶺南・嶺北間の相互訪問を促します。

◆嶺南・嶺北間の子どもたちの相互訪問・相互交流

○自然体験等での相互訪問・相互交流

ふるさとの理解を深めるとともに、将来、再び嶺南・嶺北を訪れることが期待される子どもたちの交流、体験活動等を拡大します。

◎嶺南・嶺北への遠足訪問、体験活動等の実施（H24～）

- ・小中学校による嶺南・嶺北への遠足での訪問、歴史・自然学習や体験活動などを拡大する「交流プログラム」の実施 等

関係市町
県
農林水産関係事業者

◆嶺南・嶺北間のリピート訪問を促す小旅行の促進

○観光まちづくりと県内ショートトリップ拡大

地域住民自身が、自分たちが住みたいまちづくりを進め、その結果、他地域の人が魅力を感じ、訪れるという、観光まちづくりの循環を形成します。

◎まちづくり活動の相互交流とショートトリップ拡大（H24～）

- ・地元での観光まちづくり活動の拡大、支援
- ・県内観光まちづくり人材の交流促進
- ・若者チャレンジクラブの活動など若者の嶺南・嶺北交流の拡大
- ・歴史文化、自然体験、食・グルメ、各地の祭りなどを核に、嶺北から嶺南へ、嶺南から嶺北へと向かう小旅行（バスツアー）を企画販売
- ・会議や各種大会など嶺南地域での開催を増やし、相互訪問を拡大 等

まちづくり団体
観光関係機関
関係市町
県

◎嶺南・嶺北での記念イベント同時開催（H26・27）

- ・あわら温泉開湯130周年記念イベント（H26）
- ・舞鶴若狭自動車道全線開通イベント（H26）
- ・恐竜博物館特別展（H27）
- ・北陸3県デスティネーションキャンペーン（H27）

観光関係機関
関係市町
県

(2) いかに嶺南に人を呼び込むか（観光・ブランド対策）

【対策(2)-1】「歴史・海・食」の豊かさを活かし魅力を高める

観光・ブランド対策の1つ目は、嶺南地域の豊かな「歴史・海・食」の魅力向上です。

嶺南地域には、古代（鳥浜貝塚等）、中世（明通寺、暦会館、中山寺等）、近世（氣比神宮、国吉城、熊川宿等）、近代（敦賀港等）など、あらゆる時代の歴史・文化遺産がそろっています。また、人々の手で守り受け継がれてきた様々な伝統芸能・祭り、伝統的町並みなどが残っています。

また、「御食国」としての食文化を引き継ぎ、若狭ふぐ、若狭ぐじ、へしこなど食のブランドも数多くあります。さらに、関西・中京から最も近い「日本海」として、海水浴や海釣り、漁業体験など「海のアクティビティ」も豊富にそろっています。

これら「歴史・海・食」の地域資源を伸ばし、つなげることにより、「学びと体験の一大エリア」として、魅力を高めます。

◆まち歩きを楽しむ「若狭歴史民俗観光ゾーン」形成

○ 有形・無形文化財を学び楽しむ若狭路「歴旅」の推進

寺社仏閣・史跡、民俗芸能、歴史的町並みなど、若狭には豊富な歴史・文化資源があります。これらのスポットを巡り、歴史・文化の学びを楽しむ「歴旅」を推進します。

◎ガイド付きバスツアーで巡る「歴旅」の企画・販売（H24～）

- ・ 普段見られない仏像・建築・庭園・史跡等の特別公開と、郷土料理の提供などを組み合わせ、季節限定の「歴旅」を企画
- ・ 国宝や秘仏、伝統芸能等を巡るガイド付き「歴旅」バスの運行
- ・ 嶺南地域の歴史・文化・民俗・芸能を学ぶ情報センターとして、若狭歴史民俗資料館の展示解説機能と地域の総合案内機能を充実 等

観光関係機関
文化関係機関
関係市町
県

○ 歴史的町並みの整備とまち歩き観光の拡充

小浜西組や熊川宿など歴史を感じる町並みの保全・整備について、平成26年度の全線開通を見すえ、スピードを上げて進めます。まち歩きを楽しむプログラムや案内ガイドを充実させ、歴史的景観の良さを、賑わいづくりに活かします。

◎歴史を活かした町並み整備とまち歩き観光（H24～）

- ・ 小浜西組や熊川宿など歴史を感じる伝統的街並みの整備促進
- ・ 敦賀港線・赤レンガ倉庫の活用など、港まちの歴史を活かした金ヶ崎周辺の観光機能強化、氣比神宮、船溜まり地区での拠点形成
- ・ 「欧亜国際連絡列車運行100周年」等記念イベント開催
- ・ 嶺南各市町においてまち歩きコース設定、マップ作製
- ・ 歴史的背景や文化財の価値を解説するまち歩きガイドの育成 等

関係市町
観光関係機関
県

◆若狭の海と新鮮な食を活かした海ツアー

○若狭湾岸「体験・海ツアー」の展開

リアス式海岸の美しい景観を誇る若狭の海や、ラムサール条約登録湿地の三方五湖、同候補地の中池見湿地など、若狭には豊かな自然環境があります。これらを舞台に、漁家民宿での漁業体験やシュノーケリング・カヌー・海釣り等のアクティビティなど、他地域にはない豊富な自然体験プログラムを提供する「若狭湾岸海ツアー」を展開し、関西・中京等の子どもや若者のリピーターを増やします。また、台湾等からの教育旅行誘致など、インバウンド（海外からの誘客）をさらに拡大します。

◎日本一の教育体験フィールド「若狭湾岸海ツアー」の展開（H24～）

- ・嶺南一帯で「海と農の教育体験」メニューを拡充し、漁家民宿への分散宿泊等により、小中学生などの教育旅行を誘致、受入体制の整備
- ・地引網、魚釣りなど漁師体験プログラムの開発
- ・ダイビング、シュノーケリング、シーカヤックなどのマリンスポーツ体験の充実により若者などリピーター確保
- ・海水浴場等における「遊魚ゾーン」設置や「浜ベキュー」の拡充
- ・杉原千畝「人道の港」にちなんだ観光クルーズの充実 等

観光関係機関
宿泊飲食施設
農林水産関係事業者
関係市町
県

○旅食プロジェクトの推進

新鮮な海の幸・山の幸を使ったメニューづくりと、食育・農林漁業体験等を組み合わせ、新しい食のブランド化を進めます。宿泊飲食業や観光事業者のおもてなし水準を高め、観光客の満足度を向上させます。

◎新たな食ブランドの開発（H24～）

- ・旬の食材を使った「若狭路ランチ（仮称）」などご当地メニュー開発
- ・ふぐ、へしこ、さば等の定番に加え、ジビエ、敦賀ミカン等のフルーツ、伝統野菜、熊川葛など新たな食のブランド化
- ・有機米・有機野菜のオーナー制度、農業体験への参加による都市住民と地元住民との交流促進
- ・地産池消のこだわりの食と個人向け情報発信の充実による漁家民宿等への個人客拡大、おもてなしのレベルアップ
- ・農産物収穫や魚市場体験、「キッズキッチン」での料理実践などを組み合わせた食育ツーリズムの開発
- ・大規模エコ園芸ハウスを設置し、ブランド・ミディトマト「越のルビー」をオールシーズン出荷・販売、観光農園化 等

宿泊飲食施設
農林水産関係事業者
観光関係機関
関係市町
県

◆嶺南周遊を楽しむ景観づくり

○花と光をテーマにした新たな魅力づくり

嶺南地域は、三方五湖や気比の松原、水晶浜、内浦湾の棚田など自然景観に恵まれたスポットが数多く点在しています。これら「福井ふるさと百景」に選ばれた景観地に加え、花と光をテーマにした新たな景観地（ビュースポット）をつくり、つなげることにより、嶺南周遊の魅力を高めます。

◎花と光をテーマにした新観光地づくり（H24～）

- ・歴史的街並みや寺社仏閣、海岸等におけるライトアップやイルミネーション、大火勢、漁火想、花火大会など、光をテーマにした観光推進
- ・花梅・花桃などを用いた三方五湖周辺などでの景観づくり
- ・地域を象徴する花を増やす「花の里プロジェクト」の推進
- ・レインボーラインや国道27号、国道162号など、「福井ふるさと百景」や花と光のスポットをつなぐ若狭新風景街道の設定 等

関係市町
観光関係機関
商工会議所・商工会
県

○舞鶴若狭自動車道全線開通記念イベントの開催

「歴史・海・食」、「花と光」をテーマとして、観光地のレベルアップと住民主体の観光まちづくりを順次進めます。舞鶴若狭自動車道が全線開通する平成26年度には、嶺南一帯で、学びの体験やまち歩きを中心とした地域主導型イベントを展開し、継続的な活動につなげます。

◎全線開通記念イベントの開催（H26）

- ・歴史的景観、町並み等のライトアップや花の里づくりなどにより形成されたスポットで街歩きを楽しむ地域主導型イベントの開催
- ・春と秋の若狭「歴旅」、夏の「海ツアー」、冬のイルミネーションなどと組み合わせ、年間を通して楽しめる体験型イベントの開催
- ・住民主導の観光まちづくりを継続して担う人づくり
- ・「サクラサク」など本県を舞台とした映画プロジェクトの推進 等

関係市町
観光関係機関
宿泊飲食施設
農林水産関係事業者
商工会議所・商工会
県

【対策(2)-2】魅力を伝え、舞若道から嶺南各地へ誘導する

観光・ブランド対策の2つ目は、嶺南の魅力を伝える営業活動の強化です。関西・中京からの観光入込数は、嶺南地域全体の約6割を占めます。舞鶴若狭自動車道全線開通により、関西・中京との時間距離がさらに縮まり、交流を拡大する大きなチャンスとなります。

また、敦賀・岡山間が3時間48分に、敦賀・鳴門間が3時間34分にそれぞれ短縮されます。「片道3時間圏」になれば、これまであまり交流のなかった中国・四国地域も、宿泊旅行誘致のフロンティアとなります。主要なターゲットである関西、中京はもとより、新たに中国・四国地域に対しても営業活動を強化します。

さらに、舞鶴若狭自動車道を利用する観光客が、嶺南地域を素通りすることなく、各ICから嶺南各地に降りてもらふ工夫が必要です。観光地のレベルアップとあわせ、各IC等での観光情報の発信や、誘導の拠点となる施設の整備などにより、嶺南周遊を促進します。加えて、観光客を嶺南から嶺北へとつなぎ、誘客効果を拡大します

◆関西・中京と中国・四国への営業強化

○関西、中京に対する魅力の発信強化

個人客が多い関西、中京に対しては、マスコミ、インターネット、映画等を活用したPRで嶺南・嶺北の魅力を発信強化します。また、京都、滋賀とのテーマ観光を強化することにより、周遊観光の魅力を広げます。「今でも近い」嶺南が「もっと近く」なることをアピールし、嶺南はもとより嶺北へも誘客を拡大します。

◎広域周遊観光をひろげる京都、滋賀との連携強化（H24～）

- ・京都と小浜の寺社巡り、長浜と敦賀の鉄道遺跡観光、歴史街道巡りなど、関西・中京のつながりを活かすテーマ観光の強化
- ・若狭・中丹広域観光誘客協議会（高浜町、おおい町、小浜市、福知山市、綾部市、舞鶴市）による祭り参加などの体験観光や田舎暮らし誘致での連携強化、関西・中京への共同出向宣伝の実施
- ・個人客をターゲットにインターネット、雑誌などでのPR拡充 等

観光関係機関
関係市町
近隣府県市町
県

○新ターゲット中・四国への営業展開

日本海や三方五湖などでの漁業・食育体験、漁家民宿等での宿泊、京都や奈良とつながりの深い歴史・文化資産の学習など、「学びと体験の教育旅行エリア」として、中・四国へ売り込みを強化します。あわせて、嶺北各地の市町も一体となって営業を強め、福井県全域への誘客につなげます。

◎学びと体験のエリアとして中・四国へ営業強化（H24～）

- ・教育旅行の具体的な行程等をまとめた営業用プランブックの作成
- ・中・四国における観光商談会の開催
- ・教育旅行関係者を対象としたファムトリップの開催 等

観光関係機関
関係市町
県

◆舞鶴若狭自動車道から嶺南各地への誘導

○道の駅、SA等を活用した街なかへのアクセス向上

ICから街なかへと向かう情報発信の拠点として、「道の駅」の整備・活用を進めます。また、NEXCOと連携し、SA、PAなど高速道路の施設における観光・物産PRを行います。

◎ICからすぐ寄れる道の駅等の活用・周遊拡大（H24～）

- ・嶺南各地の街なかへのアクセスポイントとして道の駅を整備・活用
- ・地場製品の販売や、イベント開催等、道の駅などでの賑わいづくり
- ・嶺南地域の各ICにおける観光マップ配布など情報発信強化
- ・複数市町の観光地を巡るバス運行支援など、嶺南各市町が連携して周遊を促す交通充実 等

関係市町
観光関係機関
NEXCO
県

◎県外SA、PA等での若狭湾岸観光地のPR（H24～）

- ・NEXCO西日本、中日本と連携し、各エリアのSA等で嶺南・嶺北の総合観光情報を発信、ドライブマップ配布や出向宣伝の実施
- ・嶺南・嶺北のふるさと製品の展示販売 等

観光関係機関
NEXCO
関係市町
県

◎舞鶴若狭自動車道を活用する特別企画（H26～）

- ・舞鶴若狭自動車道の乗り降り自由（定額料金）など、キャンペーンの実施
- ・飲食や宿泊とセットにした舞鶴若狭自動車道料金割引など、関連旅行を企画・販売 等

NEXCO
観光関係機関
関係市町
県

(3) いかに経済活動を活発化させるか（産業・貿易対策）

【対策(3)-1】ターゲット企業を定めて誘致を強化する

産業・貿易対策の1つ目は、企業誘致の強化です。舞鶴若狭自動車道の全線開通により、生産地でもあり、消費地でもある関西、中京とのアクセスが向上します。関西、中京を生産市場、消費市場の両面から捉え、それぞれの視点から嶺南地域の競争力を活かすターゲット企業を設定して、営業を強化します。

◆関西・中京の企業集積を活かす企業誘致の強化

○関西・中京の環境・新エネルギー企業集積を活かす企業誘致

関西・中京に、電池、液晶パネル等の環境関連メーカー、新エネ・省エネメーカー、電機・自動車等のセットメーカーが集積することを踏まえ、これらの企業に「中間財」を供給する企業等をターゲットに誘致を強化します。新エネ素材の需要が高い韓国に対する輸出の際、敦賀港を利用できることもアピールします。

◎環境・新エネルギー関連企業の誘致強化（H24～）

- ・再生可能エネルギー素材企業などに対する誘致強化
- ・県内試験研究機関が実施する研究内容と関連の高い研究開発を行う環境・新エネルギー関連企業を抽出して営業強化 等

県
関係市町

◆大消費地との近接性を活かす企業誘致の強化

○物流業や食品加工業等の誘致強化

関西・中京等の大消費地へ向けた、商品・食品物流のハブ機能を担う物流業や食品加工業等をターゲットに誘致を強化します。

◎物流業や食品加工業等の誘致強化（H24～）

- ・通信販売等の全国配送ロジスティクスセンター等をターゲットに企業誘致強化
- ・外食産業や食品小売業向けにそう菜等を提供する食品加工業等の誘致強化 等

県
関係市町

◆企業ニーズに応える新産業エリアの形成

○ニーズに応える産業用地の確保

既産業団地は、早期売却に努めます。あわせて投資の意思決定の速さに対応するために空き工場、遊休地などの有効活用を進めるとともに、企業ニーズに応える産業用地の整備を促進します。

◎計画的な産業用地・施設の確保

- ・既産業団地の早期売却
- ・県助成制度を活用した市町による用地造成の推進
- ・県と市町による「新産業エリア整備促進チーム」を設置、地域ごとの誘致戦略や用地確保等を検討
- ・企業ニーズに速やかに対応する「空き産業用地バンクシステム」の構築 等

関係市町
県

【対策(3)-2】敦賀港利用のポートセールスを強化する

産業・貿易対策の2つ目は、敦賀港利活用の促進です。舞鶴若狭自動車道全線開通により、北近畿、関西等から敦賀港への時短性、定時性が高まります。舞鶴若狭自動車道とつながる高速道路沿いの企業をターゲットに、スピード重視の貨物を取り扱うRORO船利用のポートセールスを強化します。

また、企業ニーズにさらに応える外貿航路の開設を目指し、韓国、中国とのスピード重視貨物の貿易動向等についての調査など、マーケティングを強化します。

◆沿線地域などへの集荷範囲の拡大

○RORO船貨物の集荷範囲の拡大

現在、RORO船を利用する企業は北陸自動車道、名神高速道路沿いに集中していますが、舞鶴若狭自動車道の全線開通により、新たに北近畿地方の企業も敦賀港利用の対象エリアとなります。敦賀港利用の集荷範囲の拡大を目指し、ポートセールスを強化します。

◎北近畿など舞鶴若狭自動車道沿い企業へ営業強化（H24～）

- ・舞鶴若狭自動車道沿線企業の貿易品目の調査分析、ポートセールス強化 等

県
敦賀市

◆成長する対岸諸国への航路拡大

○対岸諸国との外貿拡大に向けたマーケティング強化

貿易額が大きい韓国、中国向けの輸出入企業に対するニーズ調査、営業強化および今後成長が見込まれるロシアの貨物取扱可能性の調査など、航路拡大に向けたマーケティングを強化します。

◎韓国・中国との貿易貨物取扱の拡大を目指したマーケティング・ポートセールス強化（H24～）

- ・電子部品、機械、衣類、生鮮食品など、韓国・中国とのスピード重視貿易品目の動向調査、ポートセールス強化
- ・小麦、魚介類、自動車部品等など、ロシアとの貿易拡大が見込まれる品目の市場動向調査、ポートセールス強化 等

県
敦賀市

第 4 部

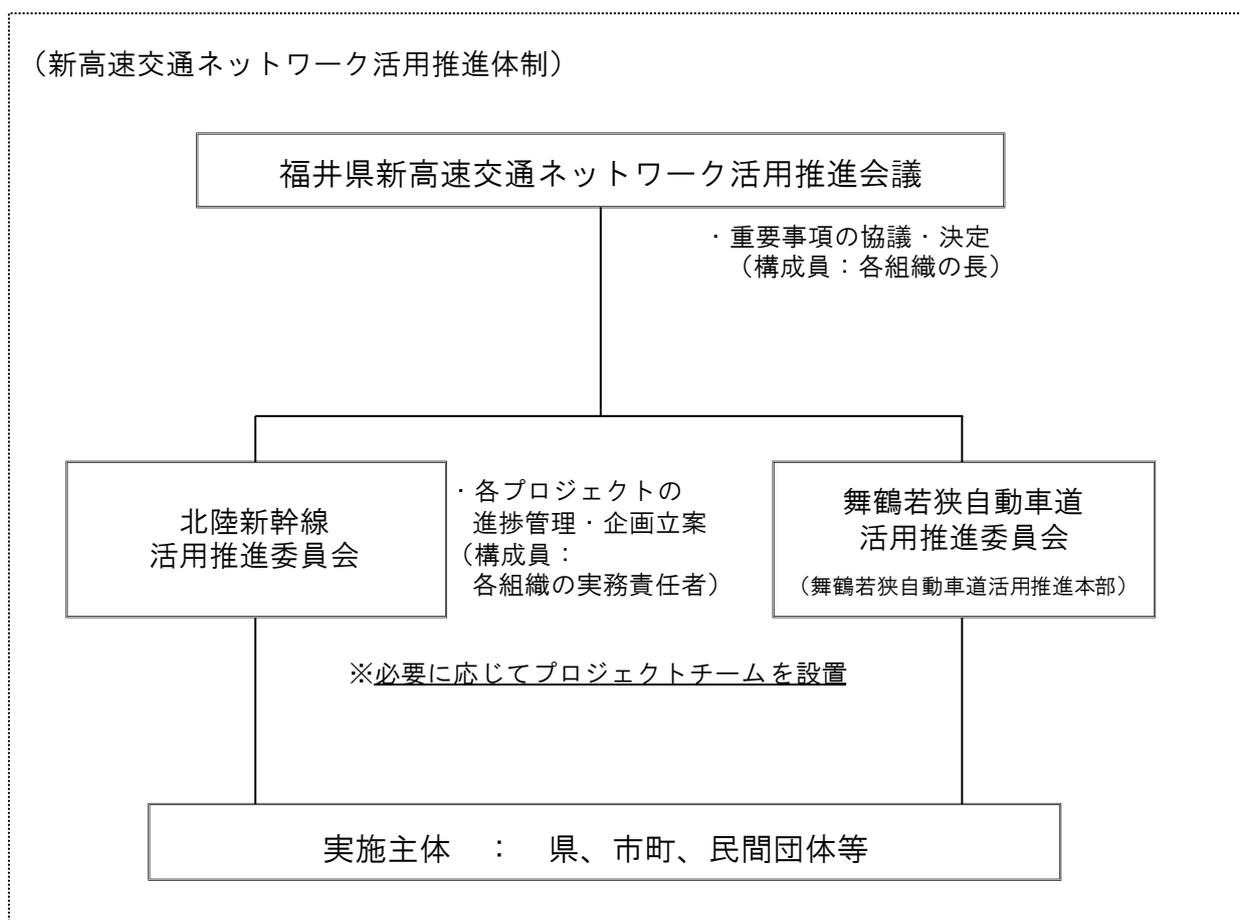
プランの推進体制

1 プラン実行の体制

このプランの最終目標は、新高速交通ネットワークの整備を活かし、全県的に波及効果を発揮させることです。そのためには、さまざまな団体、市町、県が役割分担の上、同じ方向を目指し、ともに行動することが必要です。

プランに示した活用・対策を実現し、効果を発揮するためには、何よりもそれぞれの主体的な行動が求められます。県民、企業、さまざまな団体には、チャンスを活かすための挑戦が期待されます。各市町は、地元の課題、ニーズを把握し、それに応える対策が求められます。県は、方向性を示すとともに、広域的な対策を実施し、各プロジェクトを促進するための環境整備を進めていく必要があります。

それぞれがリーダーシップを発揮する意識を持って、ともにプランの実現を目指し、具体的なプロジェクトを実行するため、県、市町、関係団体で構成するプランの推進体制を構築します。



2 プラン実行の工程

北陸新幹線の活用・対策

(1) いかに福井に人を呼び込むか（観光・ブランド対策）

			実施主体	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	
北陸3県の連携により「北陸」に人を呼び込む	◆「北陸連携」と「越前・加賀連携」のテーマ観光促進	○北陸3県連携キャンペーンの実施	◎北陸新幹線金沢開業に合わせた「北陸3県連携のデスティネーションキャンペーン」の開催	県、JR、関係市町 観光関係機関 商工会議所・商工会	関係機関協議、DC開催準備、プレキャンペーン実施			DC実施	
		○越前・加賀連携のテーマ観光の強化	◎越前・加賀連携の観光商品づくり	関係市町、観光関係機関 タクシー事業者、県	観光ガイドタクシー運行、「祈りの道」観光連携 連携イベント(グルメ、サイクリングなど)開催				
	◆「環状新幹線ルート」を活かす福井エリア周遊観光	○首都圏等からの「新・周遊切符」の企画・販売	◎北陸新幹線・東海道新幹線の両ルートを利用できる首都圏から福井方面への周遊切符(越美北線・小浜線を含む)の企画検討	JR各社、観光関係機関	関係機関協議			商品決定 販売促進PR	企画切符販売
		◆沿線各地に「福井」を売り込むブランド戦略	○首都圏等新エリアへの「福井イメージアップ」戦略	◎首都圏、北関東・信越など新エリアでの営業強化	観光関係機関、県、関係市町	南青山291サテライト開設	北関東・信越での営業強化 金沢での情報発信強化		
福井が「目的地」となるよう、福井ならではの魅力を高める	◆「一乗谷朝倉氏遺跡」を全国のフィールドミュージアムに	○一乗谷朝倉氏遺跡のレベルアップ	◎一乗谷朝倉氏遺跡資料館の「総合案内ステーション」化	県、福井市、観光関係機関	ゲート表示、コンシェルジュ、シャトルバス運行	音声案内機導入	遺跡案内システム導入	資料館整備	
		○一乗谷朝倉氏遺跡を含めた県内各地への多彩な旅	◎遺跡全体を眺望する「物見台」の整備など史跡公園の魅力向上	県、福井市、観光関係機関	展望拠点「物見台」整備・活用				
		◎中部縦貫自動車道や歴史街道の活用による県内周遊の促進	関係市町、観光関係機関、県	県内周遊観光強化					
	◆「恐竜キッズランド構想」の推進	○野外博物館・まちなかダイノスクエア等の整備	◎化石発掘現場や街なかを活用した恐竜王国の魅力拡大	県、関係市町、観光関係機関	野外博物館設計 まちなかダイノスクエア等の整備	野外博物館工事	野外博物館開館	野外博物館開館 恐竜特別展の開催	
		○温泉泊覧会(オンパク)と体験型観光の拡充	◎食と海と温泉を中心とした周遊滞在型観光地へ向上	宿泊飲食施設、観光関係機関 あわら市、坂井市、福井市 越前町、南越前町、県	オンパク継続・拡充開催 巡回バス運行実証実験	巡回バス運行	開湯130周年イベント		
	◆「海と湯けむり観光プロジェクト」の推進	○食の発信力強化と新たな食の開発	◎トップブランドからご当地グルメまで食の魅力向上	宿泊飲食施設、農林水産関係事業者、商工会議所・商工会 観光関係機関、関係市町、県	ふくい味の週間開催 県産食材の売込強化、オリジナルメニュー・ご当地メニュー開発、食の観光推進				
		○食の発信力強化と新たな食の開発	◎トップブランドからご当地グルメまで食の魅力向上	福井市、県、商業関係者 観光関係機関	県都デザイン戦略策定 街なか観光情報発信	歴史文化遺産、足羽川・足羽山散策ルート整備 水辺に親しむイベント実施			
	◆県都福井をはじめとする各都市の玄関口整備	○JR各駅周辺のまちづくり	◎県都のまちづくり	福井市、県、商業関係者 観光関係機関	駅周辺整備・まちづくり推進 駅のバリアフリー化				
			◎新幹線新時代に向けた県内各都市のまちづくり	関係市町、県、JR、商業関係者 観光関係機関					
	金沢から福井へスムーズに移動できるよう2次交通を充実する	◆金沢から福井へのスムーズ移動	○金沢駅から観光地への直通バスの運行	バス事業者、観光関係機関	関係機関協議			直通バス運行 実証実験	直通バス運行
○金沢駅からの鉄道・バス・レンタカーのスムーズ接続			◎県境を越える「乗り捨てレンタカー」の導入	レンタカー事業者、観光関係機関	関係機関協議			乗り捨てレンタカー 導入	
◎金沢駅におけるJR在来線の接続 利便性確保			JR、県、商工会議所・商工会 観光関係機関	関係機関協議			運行ダイヤ 調整	運行ダイヤ 決定	JR接続性確保
○県内周遊を伸ばす2次交通の充実		◎県内観光地をつなぐ鉄道・バスの利便性向上	JR、バス事業者、鉄道事業者 観光関係機関 商工会議所・商工会	観光地周遊バス運行 実験	観光列車、周遊フリー切符等の検討				

(2) いかに商業の競争力を高めるか(産業・商業対策)

					H24	H25	H26	H27	H28
地元での消費活動を促進する	◆新たな顧客を呼び込む魅力ある店舗の開設	○新店舗の開設、「街なか起業」の促進	◎街なか起業等による魅力ある店舗の開設	商業関係者、まちづくり会社 商工会議所・商工会 関係市町、県	新店舗の開設・街なか起業の支援	▶▶▶▶			
	◆高品質な商品・サービスの提供	○意欲ある個店のレベルアップ	◎高品質な商品・サービスを提供する店舗の拡充	商業関係者、まちづくり会社 商工会議所・商工会 関係市町、県	県外一流店での修業支援	▶▶▶▶			
新たなターゲットへ県産品の販路を拡大する	◆交流人口が増加する金沢への販路拡大	○金沢におけるビジネス拡大	◎金沢へのビジネス営業強化	商業関係者、商工会議所・商工会 県	本県企業の金沢への出店バックアップ			金沢駅での特産品販売店舗の確保	▶▶▶▶
	◆首都圏、北関東、信越とのビジネス強化	○首都圏等における「福井の逸品」販売強化	◎首都圏等における県産品販売	商業関係者、商工会議所・商工会 観光関係機関、県	291サテライトショップ開設	▶▶▶▶			
			◎北関東・信越とのビジネス交流強化	商業関係者、商工会議所・商工会 観光関係機関、県	首都圏への売込、出店等支援	▶▶▶▶			
					「チーム福井」によるビジネス営業、商談会開催			▶▶▶▶	

(3) いかに在来交通の利便性を維持・確保するか(交通対策)

					H24	H25	H26	H27	H28		
3大都市圏へのアクセス利便性を維持する	◆JR特急の利便性維持・確保	○「しらさぎ」「サンダーバード」の利便性維持・確保	◎「しらさぎ」「サンダーバード」の利便性維持・確保	JR、県、商工会議所・商工会	関係機関協議	▶▶▶▶	運行ダイヤ調整	▶▶▶▶	運行ダイヤ決定	JR利便性維持・確保	▶▶▶▶
			◎金沢駅におけるJR在来線の接続利便性確保[再掲]	JR、県、商工会議所・商工会 観光関係機関	関係機関協議	▶▶▶▶	運行ダイヤ調整	▶▶▶▶	運行ダイヤ決定	JR接続利便性確保	▶▶▶▶
	◆小松・羽田便の利便性維持・確保	○小松・羽田便の利便性維持・確保	◎小松・羽田便の利便性確保・利用促進	航空会社、県 商工会議所・商工会 観光関係機関、バス事業者	関係機関協議	▶▶▶▶	機材 運行ダイヤ調整	▶▶▶▶	機材・ダイヤ決定	航空便の利便性確保	▶▶▶▶

舞鶴若狭自動車道の活用・対策

(1) いかに嶺南・嶺北間の交流を増やすか(嶺南・嶺北の一体化)

					H24	H25	H26	H27	H28
まちづくり、人づくりで嶺南・嶺北の相互交流を増やす	◆嶺南・嶺北間の子供たちの相互訪問・相互交流	○自然体験等での相互訪問・相互交流	◎嶺南・嶺北への遠足訪問、体験活動等の実施	関係市町、県 農林水産関係事業者	検討会設置、モデルコース設計、モデル校で実施	プログラム作成 モデル校で実施	相互訪問等の拡大	相互訪問等の拡大	▶▶▶▶
	◆嶺南・嶺北間のリピート訪問を促す小旅行の促進	○観光まちづくりと県内ショートトリップ拡大	◎まちづくり活動の相互交流とショートトリップ拡大	まちづくり団体、観光関係機関 関係市町、県	▶まちづくり活動拡大・交流促進		▶嶺南・嶺北間の小旅行拡大	▶▶▶▶	
			◎嶺南・嶺北での記念イベント同時開催	観光関係機関、関係市町、県	▶関係者協議	▶イベント企画			

(2) いかに嶺南に人を呼び込むか(観光・ブランド対策)

			実施主体	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	
「歴史・海・食」の豊かさを活かして魅力を高める	◆まち歩きを楽しむ「若狭歴史民俗観光ゾーン」形成	○有形・無形文化財を学び楽しむ若狭路「歴旅」の推進	◎ガイド付きバスツアーで巡る「歴旅」の企画・販売	観光関係機関、文化関係機関 関係市町、県	▶関係機関協議	▶歴旅の企画販売	▶▶▶▶	▶▶▶▶	
		○歴史的町並みの整備とまち歩き観光の拡充	◎歴史を活かした町並み整備とまち歩き観光	関係市町、観光関係機関、県	▶鉄道と港記念イベント	▶まち歩きコース設定、ガイド等育成等	▶まち歩き観光拡充	▶▶▶▶	
	◆若狭の海と新鮮な食を活かした海ツアー	○若狭湾岸「体験・海ツアー」の展開	◎日本一の教育体験フィールド「若狭湾岸海ツアー」の展開	観光関係機関、宿泊飲食施設 農林水産関係事業者 関係市町、県	▶観光クルーズ運行	▶▶▶▶	▶若狭湾岸海ツアー拡大	▶▶▶▶	
		○旅食プロジェクトの推進	◎新たな食ブランドの開発	宿泊飲食施設 農林水産関係事業者 観光関係機関、関係市町、県	▶ご当地メニュー開発、食のブランド化	▶▶▶▶	▶▶▶▶		
	◆嶺南周遊を楽しむ景観づくり	○花と光をテーマにした新たな魅力づくり	◎花と光をテーマにした新観光地づくり	関係市町、観光関係機関 商工会議所・商工会、県	▶花による景観づくり、光をテーマとした観光の検討・実施		▶▶▶▶	▶新風景街道の設定	
○舞鶴若狭自動車道全線開通記念イベントの開催		◎全線開通記念イベントの開催	関係市町、観光関係機関、宿泊飲食施設、農林水産関係事業者 商工会議所・商工会、県	▶関係者協議	▶全線開通イベントの企画	▶全線開通イベント開催	▶▶▶▶		
魅力を伝え、舞若道から嶺南各地へ誘導する	◆関西・中京と中国・四国への営業強化	○関西、中京に対する魅力の発信強化	◎広域周遊観光をひろげる京都、滋賀との連携強化	観光関係機関、関係市町 近隣府県市町、県	▶広域観光組織による連携強化	▶京都、滋賀とのテーマ観光強化	▶▶▶▶		
		○新ターゲット中・四国への営業展開	◎学びと体験のエリアとして中・四国へ営業強化	観光関係機関、関係市町、県	▶営業プランブック、観光商談会	▶▶▶▶	▶▶▶▶		
	◆舞鶴若狭自動車道から嶺南各地への誘導	○道の駅、SA等を活用した街なかへのアクセス向上	◎ICからすぐ寄れる道の駅の活用・周遊拡大	関係市町、観光関係機関 NEXCO、県	▶道の駅整備・賑わいづくり	▶▶▶▶	▶周遊バス運行支援	▶▶▶▶	
			◎県外SA、PA等での若狭湾岸観光地のPR	観光関係機関、NEXCO 関係市町、県	▶SA、PAでの出向宣伝等	▶▶▶▶	▶ふるさと製品の展示販売	▶▶▶▶	
		◎舞鶴若狭自動車道を活用する特別企画	NEXCO、観光関係機関 関係市町、県	▶関係機関協議	▶▶▶▶	▶舞若特別企画実施	▶▶▶▶		

(3) いかに経済活動を活発化させるか(産業・貿易対策)

				H24	H25	H26	H27	H28
ターゲット 企業を定め て誘致を強 化する	◆関西・中京の 企業集積を活か す企業誘致の強 化	○関西・中京の環 境・新エネルギー企 業集積を活かす企業 誘致	◎環境・新エネルギー関連企業の 誘致強化	県、関係市町	立地支援制度創設	企業誘致営業強化	▶▶▶▶	
	◆大消費地との 近接性を活かす 企業誘致の強化	○物流業や食品加 工業等の誘致強化	◎物流関連企業や食品加工業の 誘致強化	県、関係市町	立地支援制度創設	企業誘致営業強化	▶▶▶▶	
	◆企業ニーズに 応える新産業エ リアの形成	○ニーズに応える産 業用地の確保	◎計画的な産業用地・施設の確保	関係市町、県	整備促進チーム編成、空き産業用地バンクシステム構築		▶▶▶▶	
敦賀港利 用のポート セールスを 強化する	◆沿線地域など への集荷範囲の 拡大	○RORO船貨物の 集荷範囲の拡大	◎北近畿など舞鶴若狭自動車道沿 い企業へ営業強化	県、敦賀市	沿線企業貿易品目 調査実施	ポートセールス強化	▶▶▶▶	
	◆成長する対岸 諸国への航路拡 大	○対岸諸国との外貿 拡大に向けたマーケ ティング強化	◎韓国・中国との貿易貨物取扱の 拡大を目指したマーケティング・ポ ートセールス強化	県、敦賀市	韓国 中国との貿易品目 調査実施	ポートセールス強化	▶▶▶▶	

参 考

プランの策定経緯

プランの検討

開催日	検討会等
平成23年 2月15日	第1回 福井県新高速交通ネットワーク活用PT会議
平成23年 2月25日	(第1回 北陸新幹線活用推進WG会議)
平成23年 3月 3日	(第1回 舞鶴若狭自動車道活用推進WG会議)
平成23年 3月 9日	(第2回 北陸新幹線活用推進WG会議)
平成23年 3月23日	(第2回 舞鶴若狭自動車道活用推進WG会議)
平成23年 4月 5日	(第3回 舞鶴若狭自動車道活用推進WG会議)
平成23年 4月25日	(第3回 北陸新幹線活用推進WG会議)
平成23年 6月 2日	第2回 福井県新高速交通ネットワーク活用PT会議
平成23年 7月15日	(第4回 北陸新幹線活用推進WG会議)
平成23年 7月15日	(第4回 舞鶴若狭自動車道活用推進WG会議)
平成23年 9月20日	第3回 福井県新高速交通ネットワーク活用PT会議
平成23年 9月26日	第1回 福井県新高速交通ネットワーク活用・対策プラン検討会
平成23年10月26日	第2回 福井県新高速交通ネットワーク活用・対策プラン検討会
平成23年11月25日	第4回 福井県新高速交通ネットワーク活用PT会議
平成23年11月29日	第5回 福井県新高速交通ネットワーク活用PT会議
平成23年12月26日	第3回 福井県新高速交通ネットワーク活用・対策プラン検討会
平成24年 1月12日	第6回 福井県新高速交通ネットワーク活用PT会議
平成24年 2月13日	第4回 福井県新高速交通ネットワーク活用・対策プラン検討会
平成24年 3月 4日	福井県新高速交通ネットワーク活用推進会議

※ 新高速交通ネットワーク活用PT（北陸新幹線活用推進WG・舞鶴若狭自動車道活用推進WG含む）は、県庁内組織

意見募集・提言等

実施日	内容
平成23年10月21日	観光やまちづくり活動を行っている若者12名との意見交換会
平成23年11月24日	北陸新幹線金沢駅開業に向けた対策に関する提言（福井商工会議所）
平成24年2月23日 ～平成24年3月7日	県民パブリックコメントの募集

福井県新高速交通ネットワーク活用推進会議 委員名簿

平成24年3月4日～

組 織	職	氏 名
福井県	知 事	西川 一誠
福井市	市 長	東村 新一
敦賀市	市 長	河瀬 一治
小浜市	市 長	松崎 晃治
大野市	市 長	岡田 高大
勝山市	市 長	山岸 正裕
鯖江市	市 長	牧野 百男
あわら市	市 長	橋本 達也
越前市	市 長	奈良 俊幸
坂井市	市 長	坂本 憲男
永平寺町	町 長	松本 文雄
池田町	町 長	杉本 博文
南越前町	町 長	川野 順万
越前町	町 長	関 敬信
美浜町	町 長	山口 治太郎
高浜町	町 長	野瀬 豊
おおい町	町 長	時岡 忍
若狭町	町 長	森下 裕
福井県商工会議所連合会	会 頭	川田 達男
敦賀商工会議所	会 頭	有馬 義一
小浜商工会議所	会 頭	上野 清治
福井県商工会連合会	会 長	川上 正男
福井県観光連盟	会 長	勝木 健俊
若狭湾観光連盟	会 長	上野 清治
福井県バス協会	会 長	天谷 幸弘
福井県タクシー協会	会 長	鎌田 貞男
青年会議所北陸信越地区福井ブロック協議会	会 長	田泉 裕和
芦原温泉旅館協同組合女将の会	会 長	八木 きよ美
若狭路女将の会	会 長	金森 悦子
西日本旅客鉄道（株）	執行役員金沢支社長	三浦 勝義
中日本高速道路（株）	執行役員名古屋支社長	猪熊 康夫
西日本高速道路（株）	執行役員関西支社長	芝村 善治

福井県新高速交通ネットワーク活用・対策プラン検討会 委員

平成23年9月26日～

組 織	職	氏 名
福井県	政策幹	森近 悦治
福井市	副市長	吹矢 清和
敦賀市	副市長	塚本 勝典
小浜市	副市長	東 武雄
大野市	副市長	下河 育太
勝山市	副市長	松村 誠一
鯖江市	副市長	池田 達昭
あわら市	副市長	北島 善雄
越前市	副市長	藤原 知朗
坂井市	副市長	北川 貞二
永平寺町	副町長	田中 博次
池田町	副町長	宮谷 幹雄
南越前町	副町長	宮地 哲三
越前町	副町長	宮川 清治
美浜町	副町長	中村 春彦
高浜町	副町長	日村 健二
おおい町	副町長	時岡 正晴
若狭町	副町長	田辺 長生
福井県商工会議所連合会	専務理事	鰐淵 信一
敦賀商工会議所	専務理事	小寺 英樹
小浜商工会議所	専務理事	清水 博敬
福井県商工会連合会	専務理事	川村 幸治
福井県観光連盟	専務理事	岩永 弘行
若狭湾観光連盟	事務局長	渡辺 祥磁
福井県バス協会	専務理事	野本 章夫
福井県タクシー協会	専務理事	勝木 巡
青年会議所北陸信越地区福井ブロック協議会	会 長	中村 圭吾※
芦原温泉女将の会	副会長	山口 由紀
〃	〃	伊藤 康代
若狭路女将の会	副会長	藤原 秀美
西日本旅客鉄道（株）	金沢支社企画次長	藤根 敬司
中日本高速道路（株）	名古屋支社建設事業部長	野口 英正
西日本高速道路（株）	関西支社建設事業部長	竹國 一也

※平成24年1月～ 田泉 裕和

福井県新高速交通ネットワーク活用・対策プラン

平成24年3月

————— 発 行 —————

福井県（総合政策部政策推進課）

〒910-8580 福井市大手3丁目17番1号

TEL 0776-20-0225

FAX 0776-20-0623

Eメール seisaku@pref.fukui.lg.jp

URL <http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/seiki/kousoku/kousoku.html>